

平 成 3 0 年 度

**教育に関する事務の管理及び執行状況
の点検・評価に関する報告書
(平成29年度対象)**

平成30年11月

帯広市教育委員会

目 次

1	点検及び評価の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（1）趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（2）対象・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（3）方法・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（4）学識経験者の知見の活用・・・・・・・・	1
2	点検及び評価の結果・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	（1）次代を担う人づくり・・・・・・・・	3
	（2）ともに学びきずなを育む地域づくり・・・・・・・・	11
	（3）基本目標を実現するための基盤づくり・・・・・・・・	15
3	教育に関する学識経験者の意見・・・・・・・・	25
	参考資料・・・・・・・・	27
	資料1 平成29年度教育委員会の活動状況・・・・・・・・	28
	資料2 平成29年度教育行政執行方針（抜粋）・・・・・・・・	32
	資料3 平成29年度予算決算・・・・・・・・	34
	資料4 平成29年度における主な取組み一覧・・・・・・・・	36
	資料5 成果指標の推移・・・・・・・・	42
	資料6 課題及び今後の方向性に対する平成29年度の取組み・・・	47

1 点検及び評価の基本的な考え方

(1) 趣旨

効果的な教育行政の推進をはかるとともに、市民への説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育の取組みについて点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、あわせて市民に公表するものです。

(2) 対象

「帯広市教育基本計画」の体系に従い、平成29年度に実施した取組みを対象として、点検及び評価を実施しました。

なお、「帯広市教育基本計画」においては、福祉や子育てなど他の分野と幅広く協力しながら取組みをすすめることとしていることから、教育委員会の取組みに加え、関係部課等の取組みについても、点検及び評価の対象としています。

(3) 方法

点検及び評価は、第六期帯広市総合計画の政策・施策評価と整合をはかりつつ、「帯広市教育基本計画」の「個別目標」及び「基本方向」ごとに行いました。具体的には、成果指標の達成状況や平成29年度における主な取組み内容などを踏まえながら、平成29年度における取組みの成果と、課題及び今後の方向性の2つの観点から、点検及び評価を行いました。

(4) 学識経験者の知見の活用

学識経験者から点検及び評価に関する意見や助言をいただき、教育委員会が点検及び評価を行うに当たって客観性を確保するとともに、今後の取組みに活用していきます。

参考1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

図1 帯広市教育基本計画体系図

基本目標	個別目標	展開方策
1 次代を担う人づくり	1-1 知識・技能の習得	(1) 子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進 (2) 個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進 (3) 職業に関する教育・学習活動の推進 (4) 高度情報化に対応した教育・学習活動の推進
	1-2 豊かな心の育成	(1) 子どもの社会性の育成 (2) 豊かな情操の育成と生きがいづくり
	1-3 健やかな体づくり	(1) 健やかな体を育むスポーツ活動等の推進 (2) 食育の推進と学校給食の充実
	1-4 人間を尊重し自然と共生する人づくり	(1) 人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進 (2) グローバル化に対応した教育・学習活動の推進 (3) 環境に関する教育・学習活動の推進
2 とともに学びきずなを育む地域づくり	2-1 ふるさとの理解の促進	(1) 子どものふるさと教育の推進 (2) 地域に関する学習活動の推進
	2-2 きずなづくり・まちづくり	(1) まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進 (2) にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興

	基本方向	展開方策
基本目標を実現するための基盤づくり	1 学校・家庭・地域の連携	(1) 開かれた学校づくり (2) 家庭教育への支援 (3) 家庭や地域による教育支援の推進
	2 教育を支える人材の育成	(1) 教員の人間力・指導力の向上 (2) 地域の人材の発掘・育成・活用
	3 教育環境の充実	(1) 学校教育の環境整備 (2) 社会教育の環境整備 (3) 保育・体験活動の環境整備
	4 教育機会の確保	(1) 就学・進学への支援 (2) 健やかな発達の支援
	5 よりよい教育のためのしくみづくり	(1) 魅力ある学校づくりの推進 (2) 学校教育のしくみの工夫改善 (3) 社会教育施設の利用の促進 (4) 地域の実情に応じた教育行政の推進

2 点検及び評価の結果

(1) 次代を担う人づくり

個別目標1-1	知識・技能の習得
市民が生涯にわたり自己を高めるとともに、時代の変化に適応し、自立して生きることができるよう、必要な知識・技能を習得することができる教育・学習活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進」については、標準学力検査等で課題を明確にし、授業改善資料として紀要「帯広の子どもの学力」を活用した悉皆研修などにより、標準学力検査の目標基準到達観点数は目標値を上回りました。 (2)「個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進」については、プラザ・エンジョイスクールや高齢者学級において、周知方法の見直しを行ったことにより、講座等の参加者数は目標値を上回りました。 (3)「職業に関する教育・学習活動の推進」については、小中学校において、将来を見据えたキャリア教育の充実を進めてきました。帯広南商業高校では、模擬面接などの進路指導、挨拶運動などの生活指導や即戦力となる人材育成に努めたほか、企業との緊密な連携を継続して進めてきたことにより、就職率 100%を達成しています。また、補習対策や、検定合格者の状況を掲示し資格取得への高い意識付けを図ったことにより、検定の3 種目以上 1 級取得率も目標値を上回りました。 (4)「高度情報化に対応した教育・学習活動の推進」については、小中学校がクラウド型サーバーシステムを活用しやすいよう、教育効果の高い教材を提供しました。
課題及び今後の方向性	(1)「子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進」については、確かな基礎学力の定着を図るため、個々の実態に応じた学習指導、より実効性のある教材や資料の提供等による授業改善、教職員への学力向上研修講座の開催のほか、学校、家庭、地域が一体となり、学習習慣や生活習慣の改善を進めます。 (2)「個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進」については、講座内容の見直しや新規講座の実施のほか、広範な情報発信を行い、新規受講者の確保に取り組みます。 (3)「職業に関する教育・学習活動の推進」については、小中学校において、キャリア教育の充実を図るよう、引き続き、指導・助言していきます。帯広南商業高校では、経済情勢の変化や企業ニーズを把握し、キャリア教育や職業教育の充実を図るほか、豊かな社会性と教養を身に付けた人材育成に努めます。 (4)「高度情報化に対応した教育・学習活動の推進」については、児童生徒の情報選択能力や情報モラルの向上を図るため、引き続き、関係機関と連携しSNSの正しい使い方やインターネットの安全利用に関する啓発活動に取り組みます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H29 実績値	H31 目標値
		H29 目標値	
標準学力検査の目標基準到達観点数（観点）	26	41 40	42
帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数（人）	22,590	38,432 23,000	23,000
帯広南商業高等学校の就職率（％）	100.0	100.0 100.0	100.0
帯広南商業高等学校における検定の３種目以上１級取得率（％）	46.7	77.0 68.0	75.0

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ プラザ・エンジョイスクール

市民が気軽に学び、成果を活かせる場を提供することを目的に、平成８年度より開講しています。

健康・スポーツ、音楽、語学、料理、手芸、パソコンなど、多様な講座を開講し、生涯学習のきっかけづくりに貢献するほか、市民交流の場としての役割を果たしています。

平成２９年度は、１５５講座を開講し延べ１,９７５人の受講があり、多くの市民に学習活動機会を提供しました。



プラザ・エンジョイスクール
パソコン講座の様子

◆ 帯広南商業高校での就職指導

３年生に対しては、６月に面接の基本指導、９月に模擬面接指導を行い、就職試験解禁日に備えて準備を進めるほか、卒業生から助言を得るなどし、面接本番に向けた準備を行っています。

２年生は、平成２９年度５０職場でインターンシップを行い、キャリア形成に役立っています。それに先がけ、教員は市内の企業と調整を重ねて準備を進めるほか、外部講師によるマナー指導「ビジネス基礎講座」を実施し、インターンシップ当日に備えています。

１年生については、本校の卒業生から就労・就学体験を聞く「先輩訪問」を実施し、進路実現への意欲を高めるとともに、今何をすべきか、を考える機会としています。

日頃から、教員は企業や職業に対する生徒の興味関心が高まるよう指導しています。



面接の基本指導の様子



卒業生からのアドバイス

個別目標1-2	豊かな心の育成
子どもたちが、他の人々と協調しながら、自らを律し、社会においてよりよく生きる力を身につけるとともに、市民が生涯にわたりゆとりやうるおいを実感して生活することができるよう、豊かな心の育成に取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「子どもの社会性の育成」については、こころの教室相談員やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーを学校へ派遣し、児童生徒の悩み等へのきめ細かい相談体制に努めました。また、いじめや非行の未然防止と早期解決のため、関係機関と連携を図り、各種教員研修や「帯広市小中学生いじめ・非行防止サミット」等を開催したほか、「帯広市児童生徒のいじめ・非行防止5つの誓い」のクリアファイルを配布し、児童生徒の意識啓発を行いました。道徳の教科化に向けた取組みとして、小学校の「特別の教科 道徳」の教育課程編成の手引きを作成するほか、指導訪問などで指導・助言を行い、小中学校ともに道徳の授業改善を進めました。 (2)「豊かな情操の育成と生きがいづくり」については、小中学校において学校図書館ボランティア等が行っている、読み聞かせや朝読書などの取組みにより、学校図書館の児童生徒1人当たり貸出冊数は、小中学校ともに目標値を上回りました。また、市民芸術祭など市民主体の芸術・文化活動の支援のほか、各文化施設における良質な芸術・文化に触れる鑑賞機会の提供など、身近に芸術・文化に親しめる環境づくりに取り組みました。
課題及び今後の方向性	(1)「子どもの社会性の育成」については、家庭や児童生徒の心の内面の複雑化、原因の多様化により、小中学校の不登校児童生徒が学校復帰まで至らないケースが多かったことから、不登校生徒の復帰率は目標値を下回りました。引き続き、教育相談員の専門性の向上を図るための研修、適応指導教室の活用など個々に応じた教育相談体制や保護者への相談体制の充実に努めるとともに、より有効に教育相談員の活用を図るため、配置日数の調整等の工夫を進めます。また、道徳の教科化に向けて、中学校の「特別の教科 道徳」の教育課程編成の手引きを作成するほか、指導訪問などを通じて指導・助言を行います。子どもの居場所づくり事業は、運営の大部分を担うボランティアスタッフやコーディネーターの不足により、実施回数を増やすことができず、子どもの居場所づくり参加児童数は目標値を下回りました。引き続き、活動内容の効果的な周知に努めるとともに、学校、地域やボランティア団体の連携体制を強化し、魅力ある企画講座の実施やスムーズな事業運営に取り組みます。 (2)「豊かな情操の育成と生きがいづくり」については、小中学校の学校図書館において、魅力ある蔵書整備はもとより、運営に係る担い手の確保や専門性の向上を図るなど、より活用しやすい学校図書館づくりに努めます。また、鑑賞事業の入場者数は、6年連続で増加しているものの、目標値を下回りました。市民協働による鑑賞機会の提供に向けた仕組みづくりを検討するほか、芸術・文化に関する魅力や開催情報などの情報発信に努めます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H29 実績値	H31 目標値
		H29 目標値	
不登校生徒の復帰率（％）	30.8	28.7 60.0	65.0
子どもの居場所づくり参加児童数（人）	7,575	22,413 29,900	31,100
小学校図書館の児童１人当たり貸出冊数（冊）	9.1	16.0 11.2	11.8
中学校図書館の生徒１人当たり貸出冊数（冊）	1.6	4.0 2.2	2.4
鑑賞事業の入場者数（人）	34,098	28,874 38,000	38,000

※貸出冊数は年間の冊数

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 教育相談体制の充実

学校において児童生徒の身近な存在として、不安や悩みなどの相談を受ける「こころの教室相談員」、家庭訪問を中心に不登校や登校を渋り気味の児童生徒へ働きかけを行う「家庭訪問相談員」、友人関係・親子関係など様々な人的な要因と、子どもや家庭が置かれている環境の両面に働きかけを行い、関係機関との連携を図りながら対応を行う「スクールソーシャルワーカー」等を活用しながら、児童生徒や保護者の悩み等の個別の教育相談にあたっています。

また、月に１回相談員による定例会議を開催し、情報交流・研修を行うなど、相互連携を図っています。



定例相談員会議の様子

◆ 学校図書ボランティア

学校図書館の利活用にあたり、PTAや地域のボランティア、教職員で構成された学校図書館運営委員会を組織し、学校図書館業務の充実や行事の企画・実施などを行っています。

また、学校図書ボランティアのご協力をいただきながら、読み聞かせや朝読書、学校図書館の土曜開放などの活動を通して、学校図書館における読書活動の推進に努めています。



学校図書ボランティアによる
読み聞かせの様子

個別目標1－3	健やかな体づくり
市民が生涯にわたり心身ともに健やかな生活を送ることができるよう、健やかな体づくりに取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「健やかな体を育むスポーツ活動等の推進」については、明治北海道十勝オーバルでのスピードスケート大会、フードバレーとかちマラソン大会などの各種大会やスポーツ教室を開催するなど、スポーツに触れ、楽しむことができるきっかけづくりに取り組んだほか、指定管理者と連携し、講習会などの内容の充実に努めました。児童のむし歯予防を目的とした学校におけるフッ化物洗口の取組みについては、平成 22 年度から実施している帯広小学校に加え、平成 29 年度から豊成小学校で開始し、児童の歯・口腔の健康づくりの推進に努めています。 (2)「食育の推進と学校給食の充実」については、小中学校において食に関する教育指導計画、食育推進委員会による啓発資料「帯広らしい食育プログラム」及び「食育レシピ集」を作成しているほか、食育講演会や食育指導専門員による食育出前授業、平成 29 年度には市内全小中学校で給食指導を実施するなど、食に関する知識と食を選択する力の習得に向け、生涯にわたって健全な心身を培うための基礎となる食育を推進しました。学校給食においては、関係部署、地元の農協や生産者との連携により、年間を通して安定的に使用できる地場産冷凍野菜や野菜貯蔵庫を所有している地元生産者などから、冷凍人参、玉葱、キャベツ、レタス等を購入し、地場産野菜の導入に努めました。
課題及び今後の方向性	(1)「健やかな体を育むスポーツ活動等の推進」については、明治北海道十勝オーバルでのスピードスケート大会をはじめとした各種大会や指定管理者が実施する講習会の開催数の増加に伴い、スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数は増加傾向にあるものの、総合型地域スポーツクラブ数の減や、平成 28 年の台風被害によるクロスカントリースキー大会の 2 年連続中止などから、目標値を下回りました。今後は、より多くの市民がスポーツに親しみ、楽しむことのできる機会づくりに努めます。また、小学生のうちスポーツ少年団の登録団員数の割合は減少傾向ですが、引き続き、学校等を通じて各家庭へ少年団の情報提供を行います。 (2)「食育の推進と学校給食の充実」については、栄養教諭と食育指導専門員の連携を強化し、互いの業務形態の工夫と改善に努めるとともに、啓発資料を活用しながら、児童生徒への食に関する指導の一層の充実に図ります。学校給食における地場産野菜の導入率は、地元生産者からの直接購入など取引先を拡大したことにより、前年に比べ増加したものの、端境期に適切な量を確保できなかったことから、目標値を下回りました。引き続き、地元生産者と協議を進め、地場産野菜の導入に向けて、天候に影響されやすい収穫期の確保と端境期の使用量・品目拡大に取り組みます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H29 実績値	H31 目標値
		H29 目標値	
スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数（人）	35,677	68,871 87,000	87,000
総合型地域スポーツクラブの設置数（か所）	2	4 7	8
学校給食における地場産野菜の導入率（％）	55.7	57.3 69.3	70.0

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ フードバレーとかちマラソン大会

平成 29 年で 6 回目の開催となったフードバレーとかちマラソン大会は、北海道でシーズン最後の日本陸上競技連盟公認コースの大会であり、5,000 人を超えるランナーが参加し、約 800 人のボランティアが大会を支えました。また、沿道では多くの市民が横断幕を掲げてランナーに声援を送り、沿道上の店舗では飲食物の提供を行うなど、十勝最大級の市民参加のスポーツイベントとなりました。

マラソン終了後の催しでは、フードバレーとかちの味覚を堪能できるほか、記念品の贈呈や協賛品の抽選会なども行われ、多くの参加者や観客で賑わいました。



2017 フードバレー
とかちマラソン大会

◆ 食育の取組み

学校教育指導室では、学校給食センターとの連携を密にしながら、栄養教諭及び食育指導専門員が学校を訪問し、食育についての指導を行っています。平成 29 年度からは、市内小中学校の全クラスで、給食時の指導を行っています。

また、学校食育推進委員会では、より効果的な食育指導を行うことができるよう啓発資料を編纂・発行し、児童生徒をはじめ教職員や保護者の食育への関心を高めています。

学校給食センターでは、学校給食への地場産野菜の安定供給を担っている地元ＪＡの青年部の協力により、帯広産の野菜を使用した特別献立を実施しています。５月にはアスパラガス、１０月には豊西牛・じゃがいも・人参・ごぼうなどを使用し、食材の旬の時期に合わせた給食を提供しました。提供日には生産者が小学校を訪問し、農業のやりがいや苦労話などを児童へ紹介し、児童と一緒に給食を食べて交流をしました。



各学校での食育指導の様子



生産者の学校訪問の様子

個別目標1－4	人間を尊重し自然と共生する人づくり
誰もが人間として尊重され、共生することができる社会づくりや、人と自然が共生する持続可能な社会づくりに資するため、市民が必要な知識などを習得することができる教育・学習活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進」については、新たに大正ふれあいまつりにおいて周知啓発を行うなど、庁内外と連携しユニバーサルデザイン（UD）に関する講座等の開催機会の拡大に努めたことにより、目標値を上回りました。また、男女共同参画セミナーやパネル展の開催、情報誌の発行など、男女平等の意識啓発を行いました。そのほか、障害のある人が日常生活で感じている社会的障壁の解消に向けた取組みとして、援助や配慮を知らせるためのヘルプマークを配布し、障害者理解の促進に努めました。 (2)「グローバル化に対応した教育・学習活動の推進」については、小学校外国語活動及び中学校外国語科の指導の充実を図るため、外国語指導講師を全小中学校に派遣し、児童生徒の確かな学力向上に努めました。帯広南商業高校では、専任の英語指導助手の配置や姉妹都市への生徒派遣により、生きた英語に触れる機会を提供し、コミュニケーション能力の向上と国際理解を深めました。国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数は、在住外国人との各種交流事業を通じた国際理解を推進し、事業の魅力向上に努めたことなどから、目標値を上回りました。 (3)「環境に関する教育・学習活動の推進」については、環境にやさしい活動実践校の取組促進に向けて、校長会等を通して、未認定校へ積極的に制度内容や、導入の意義と効果への理解を促したことにより、新たに6校認定し、最終目標値である全41校の認定を前倒して達成しました。
課題及び今後の方向性	(1)「人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進」については、ユニバーサルデザイン（UD）に対する市民の意識向上を図るため、引き続き、UD講座の開催のほか、庁内外と連携した周知に努めます。また、男女共同参画については、性別による固定的な役割分担意識や社会慣行の解消のため、セミナーや講座を開催するなど、男女平等意識の浸透・定着を図ります。そのほか、差別に関する相談、紛争の防止や解決を図り、障害や障害のある人への理解の促進に取り組みます。 (2)「グローバル化に対応した教育・学習活動の推進」については、新学習指導要領や小学校外国語活動の教科化などに対応した指導のあり方を考え、実践していくために、外国語指導講師の人員増も含めた体制を検討します。 (3)「環境に関する教育・学習活動の推進」については、教員の環境教育への理解を深めるため、関係部署と連携して研修を実施するほか、引き続き、環境教育プログラム集などにより情報を発信し、帯広らしい環境教育を推進します。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H29 実績値	H31 目標値
		H29 目標値	
UDに関する講座等への参加者数（人）	234 (H17-19 平均)	365 284	370
国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数（人）	8,465 (H17-19 平均)	10,099 9,180	9,350
環境にやさしい活動実践校数（校）	10	41 38	41

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 男女共同参画の啓発

男女共同参画の啓発として、男女共同参画セミナーの開催や、女（ひと）と男（ひと）の一行詩の募集・展示、男女共同参画情報誌「カスタネット」を発行しています。

平成 29 年度は、セミナーの受講者が 88 人となったほか、一行詩の募集には、397 人から 828 作品の応募がありました。そのほか、「カスタネット」は、年 2 回各 3,000 部を発行しました。

これらにより、帯広市における男女共同参画社会がさらに推進されるよう、啓発の取組みを進めています。



男女共同参画セミナーの様子

◆ 帯広南商業高校でのグローバル教育

英語指導助手を配置し、生徒が生きた英語に触れることにより、英語学習能力の向上や外国の生活文化の理解促進につながっています。

インターネットを活用した英語学習システムにより、生徒個々のレベルに応じた効果的な学習ができ、検定試験の合格に寄与しています。

姉妹都市であるマディソン市へ生徒 5 人を派遣し、ホームステイ体験や現地高校生との交流を行うことにより、生きた英語や文化に直接触れ、専門性の高い国際理解教育につながっています。



マディソン市への生徒派遣
出発の様子

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

個別目標2-1	ふるさとの理解の促進
市民がふるさとの風土に学び、自己を確立するとともに、ふるさとの誇りや愛着などを高めることができるよう、ふるさとの理解や再発見を促進する教育・学習活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「子どものふるさと教育の推進」については、主体的・対話的に学ぶ「帯広版アクティブ・ラーニング」に取り組み、家庭や地域の幅広い人々の参画・協力のもと、「郷土体験学習」、「自然体験学習」、「ふるさと学習農園」の体験活動を実施し、児童生徒のふるさとへの理解を推進しました。また、百年記念館では、身近な生きものについて理解を深め、環境を大切にする心を育てるため、エゾリスやアカゲラの暮らしを紹介する出前講座を実施するなど、児童生徒がふるさとの自然について学ぶ機会を提供しました。 (2)「地域に関する学習活動の推進」については、地域に根ざした親しみやすいコミュニティ講座等を開催したことにより、地域について学ぶ講座等への参加者数は目標値を上回りました。また、百年記念館に設置しているアイヌ民族文化情報センター（リウカ）では、アイヌに関する文化や歴史資料の展示、出前講座や自然観察会の開催など、自然分野との連携を図りながらアイヌ文化に触れる機会の充実を図りました。そのほか、アイヌの古式舞踊の保存・伝承団体の活動支援のほか、アイヌの伝統的生活空間（イオル）再生事業に取り組み、十勝地域のアイヌ文化の保存・継承、理解促進を図りました。
課題及び今後の方向性	(1)「子どものふるさと教育の推進」については、小中学校で行っている体験活動等において、児童生徒の主体性を促すよう、プログラムの見直しや学校独自の取組みを多くするなどの検討を進めます。また、百年記念館では、出前講座の教材の更新や新たなプログラムづくりに取り組みます。 (2)「地域に関する学習活動の推進」については、継続して市民大学講座、百年記念館博物館講座や図書館郷土資料展示などを行い、地域の文化や歴史を学び、理解を深める機会を提供するほか、多くの市民が興味・関心をもつよう、効果的な周知方法を検討します。また、アイヌ民族の文化や歴史を学習する機会の充実を図るため、リウカの利用や出前講座の周知を積極的に行うほか、アイヌの伝統文化の保存・普及を図るため、引き続き、アイヌの古式舞踊の保存・伝承団体への支援、イオル再生事業に取り組みます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H29 実績値	H31 目標値
		H29 目標値	
地域について学ぶ講座等への参加者数（人）	4,053	6,122	4,000
		4,000	

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 野生動物の出前講座

身近な野生生物に注目して身のまわりの環境を知ってもらうことを目的に、出前講座「ミニ百年記念館」（エゾリスのくらし・アカゲラのくらし）を実施しています。

小学校や博物館等の施設に、はく製や巣、写真を持ち込み、クイズや質問をしながら、食べているものや住んでいるところ、他の生物とのかかわりを学びます。博物館の強みである実物資料を用い、触れる、匂いをかぐなど、体感しながら、「わくわく」「楽しい」という気持ちを大切に、講座を行っています。



ミニ百年記念館
「エゾリスのくらし」の様子

◆ アイヌの伝統文化の保存、普及啓発

アイヌの伝統文化の保存伝承、普及啓発のため、国の重要無形民俗文化財に指定されているアイヌ古式舞踊の保護団体への活動支援や、アイヌの伝統的生活空間（イオル）再生事業に取り組んでいます。

十勝のイオル再生事業は、道内５番目の実施地域として、上士幌町音更川隣接地域を拠点に、自然と共生していたアイヌの人々の文化の継承等に必要な樹木等の栽培のほか、植物観察会やアイヌ料理体験など地域住民を対象とした体験交流事業、普及啓発事業を行っています。



体験交流事業の様子（植物観察会）

個別目標2-2	きずなづくり・まちづくり
地域におけるきずなづくりや、市民主体のまちづくりに資するため、まちづくりへの市民参画やまちのにぎわい・交流を促進する学習・文化・スポーツ活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進」については、青少年リーダー養成事業参加者数は、ジュニアリーダー養成事業や各種体験活動事業を実施し多くの参加を得たことから、目標値を上回りました。また、図書館では、「語り手育成講習会」、「学校図書館クリニック」などの受講者が、その習得した知識と技術を生かして、図書館や学校などで活躍しており、百年記念館では、ボランティア養成講座の受講者が、「音の博物館」、「レコードコンサート」の開催や展示解説などを行っています。そのほか、動物園では、帯広畜産大学の学生ボランティアによる独自のイベント企画などの自主的な活動に取り組んでおり、いずれも定着したボランティア活動が事業展開の大きな支えとなっていることから、学習成果の活用事例数は目標値を上回りました。 (2)「にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興」については、おびひろ市民芸術祭において、より多くのジャンルの団体が参加しやすくなるよう工夫したことにより、発表・活動の場への参加団体数は、前年に比べ7団体増加し、目標値を大きく上回りました。また、明治北海道十勝オーバルのナショナルトレーニングセンター指定に伴うスピードスケート合宿が削減であったことから、スポーツ合宿団体数は目標値を上回りました。そのほか、全国・全道大会開催数が増加したことや、日本クラブユースサッカー選手権大会やフットバレーとかちマラソン大会などの全国規模の大会も固定化し、集客数が増えたことにより、各種スポーツ大会の観客数は目標値を上回りました。
課題及び今後の方向性	(1)「まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進」については、青少年体験活動において、青少年育成団体スタッフの人材育成と発掘が課題であることから、活動内容を積極的に市民に周知するほか、過去に育成活動に参画していた人材の再発掘や協力者が活動に参加しやすい体制づくりを検討します。また、図書館、百年記念館、動物園などの社会教育施設では、ボランティアの知識技術の向上・継承を図りながら、活動できる人員の充実に努めるとともに、ボランティアの自主性を促しながら、知識・技術の専門性を活かした活動の場を今後も提供していきます。 (2)「にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興」については、文化活動について構成員の高齢化や小規模化が進んでいることから、芸術文化に関わる団体の活動の継続・活性化のため、文化団体等が意見・情報交換する機会の提供や情報収集の手法を検討します。また、新総合体育館が平成32年3月に供用を開始することから、帯広市スポーツ合宿・大会誘致推進実行委員会や関係団体と連携し、新たな団体の確保に向け、北海道はもとより首都圏への誘致活動の強化を図ります。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H29 実績値	H31 目標値
		H29 目標値	
青少年リーダー養成事業参加者数（人）	208	266 250	260
学習成果の活用事例数（件）	1 (H20)	10 8	10
発表・活動の場への参加団体数（団体）	56	106 63	65
各種スポーツ大会の観客数（万人）	16.0	20.9 20.8	20.8
スポーツ合宿団体数（団体）	150 (H20)	216 200	200

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 動物園でのボランティアによる活動

帯広明るい社会づくり運動主催の一般市民参加による清掃奉仕、地元企業等による夏期開園前の奉仕活動、帯広畜産大学ボランティアサークル「ZooFul」によるイベント企画や週末・イベント時のガイド、同大学ボランティアサークル「OZUFUL」によるサテライトブースの運営などのボランティア活動により、動物園づくりを図っています。



清掃奉仕活動の様子

◆ 市民芸術祭

市民主体の芸術・文化活動の発表の場と鑑賞機会の提供として、市民芸術祭を開催しています。

第36回となる平成29年度は、5月2日から30日までの期間中に、さまざまなジャンルの演目が発表されたステージ部門、作品展示のほか体験会も開催された展示部門、2流派によるお点前の茶会が催され、文化活動を行う106団体、1,270人が参加し、18,035の方に鑑賞いただきました。



文化団体によるステージ発表

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

基本方向1	学校・家庭・地域の連携
学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に協力しながら、社会を挙げて教育を充実することができるよう、学校・家庭・地域の連携をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「開かれた学校づくり」については、全小中学校や帯広南商業高校で学校評議員制度を活用し、学校運営に関して意見をいただいたほか、行事に招待するなど、開かれた学校づくりを進めました。また、コミュニティ・スクールの導入に向けた内部検討、研修会及び先進地の視察を行いました。 (2)「家庭教育への支援」については、地域子育て支援センターにおいて、妊婦向け講座の開催を増やし、妊娠期からの支援の充実を図ったことにより、子ども1人当たりの子育て支援センター等の利用回数は目標値を上回りました。また、家庭教育学級では、各学級での学習会や、バス学習・合同レクなどの交流を通して、子どもの健全な成長発達や親自身の成長に役立つ学習を行い、家庭の持つ教育力を高めました。そのほか、百年記念館の親子陶芸教室や動物園の「親子で挑戦！動物園のミステリークイズ」など、親子がふれあう多様な機会を提供しました。 (3)「家庭や地域による教育支援の推進」については、「こども学校応援地域基金プロジェクト」により、様々なボランティア団体がつながり、子どもを地域ぐるみで応援する取組みを進めてきた結果、平成25年度より全小中学校で活用されており、学校支援ボランティアを活用した学校数は目標値を上回っています。
課題及び今後の方向性	(1)「開かれた学校づくり」については、今後もコミュニティ・スクールに関する情報を収集するほか、新任学校評議員研修会の開催や学校関係者評価者としての役割など、研修機会や学校評議員制度の活用の充実に努めます。また、教職員や地域住民等への周知を進めながら、コミュニティ・スクールの導入に向けて取り組みます。 (2)「家庭教育への支援」については、子育てメール通信の利用率が前年に比べ増加したものの、利用にあたりメールの受信設定の変更が必要となるため、利用者登録を希望しない保護者が多いことから、目標値を下回りました。平成30年度からは「すこやかネット」を通じて、これまでメールでは提供できなかった動画の視聴や子育て施設マップなど、より充実した情報を提供します。 (3)「家庭や地域による教育支援の推進」については、学校支援地域本部のコーディネーターやボランティアの高齢化に伴い人材の確保が難しいことから、各種団体との情報交流を行い、地域の人材発掘や活動内容の充実に努めるほか、団体と人をつなぐコーディネーターのあり方について検討を行います。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H29 実績値	H31 目標値
		H29 目標値	
子ども１人当たりの子育て支援センター等の利用回数（回）	10.2	16.6 11.7	12.0
子育てメール通信の利用率（％）	23.8 (H20)	42.4 53.4	60.0
学校支援ボランティアを活用した学校数（校）	2	40 32	40

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 地域子育て支援センターの講座

市内６か所の保育所に併設されている「帯広市地域子育て支援センター」では、０歳から就学前のお子さんと保護者の方が一緒に遊んだり、参加できる事業を実施しています。また、妊娠・子育て中の悩みや不安などに対してアドバイスを行うほか、参加者同士が交流しながら仲間づくりをする場を提供しています。

平成２９年度は、地域子育て支援センターにおいて栄養士による栄養相談会や、保健師による「生活リズム」「予防接種」についての講座、さらにはママと赤ちゃんの相談会の中で、助産師による「ママと赤ちゃんのわくわく母乳講座」、歯科衛生士による「ママと赤ちゃんの歯っぴい講座」などの講座を２６８回実施しました。



「ママと赤ちゃんのわくわく母乳講座」の様子

◆ こども学校応援地域基金プロジェクト

帯広市では、平成２７年度に「こども学校応援地域基金プロジェクト」を立ち上げ、子どもたちのために地域で活動しているボランティア団体同士の、横のつながりを深めるための取組みを行っています。

また、平成２８年４月に、ボランティア団体等に対して財政面から支援するため、「こども学校応援地域基金」を創設しました。平成２９年度は、基金からの交付金を活用した「横のつながりを意識した」取組みが、６つの団体で行われました。



ボランティア同士のつながりを深める「こども応援！みらいカフェ」の様子

基本方向2	教育を支える人材の育成
専門性や豊かな人間性などを備えた、教育を支える人材を確保するため、教員や地域の指導者などの育成に取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「教員の人間力・指導力の向上」については、研修内容の充実や教員に対する研修機会の周知徹底を図ったことにより、教職員 1 人当たりの研修受講回数は、目標値を上回りました。また、指導主事による学校訪問において、学校力と教員の指導力が向上するよう、管理職や教職員に指導・助言を行ったほか、学力向上推進プロジェクトチームによる学級経営・授業改善ワンポイント講座を開催し、教員の指導力向上に努めました。そのほか、教職員の勤務状況の改善等に向けて、「教職員の勤務の在り方に関する検討会議」を開催し、教職員が生き生きと働くことができるよう、定時退勤日、時間外勤務縮減週間や部活動休養日の設定などの取組みについて協議しました。 (2)「地域の人材の発掘・育成・活用」については、高齢化により活動を終了した文化団体がある一方で、ジャンルの多様化により新たに活動を開始した団体があり、さらにホームページに掲載していない団体に積極的に PR したことから、ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数は目標値を上回りました。また、地域のスポーツ文化であるスピードスケートの普及振興を推進するため、十勝管内小学校の授業開放を実施するなど、明治北海道十勝オーバルの利用促進を図ったほか、「ほっとドリームプロジェクト」では、指導者や教員の指導力向上のための講習会などを開催し、人材育成をはじめ、競技力向上やスピードスケート人口の拡大に取り組みました。
課題及び今後の方向性	(1)「教員の人間力・指導力の向上」については、学校教育における成果は教員の力量や人間性などに負うところが大きいことから、教育課題に合致した教員研修の工夫や公開研究会の充実を図り、積極的な受講や参加を呼びかけるほか、教員リーダー育成事業「ONE-UP研修会」において、教員の資質・能力や豊かな人間性と社会性の向上を図ります。また、教職員の長時間勤務解消等に向けて、「帯広市立学校における教職員の働き方改革推進プラン」に基づき、部活動休養日や長期休業期間中に学校が対外的な活動を行わない学校閉庁日を設定するなど、教職員の働き方改革を推進します。 (2)「地域の人材の発掘・育成・活用」については、教育、文化やスポーツなどの様々な分野で活躍している指導者への登録の呼びかけなどを行っているものの、市民への認知度が十分ではなく、新規登録者の増加に結びついていないことや既登録者の高齢化などにより、地域の指導者の登録者数は目標値を下回りました。引き続き、幅広く市民に情報が届くよう、積極的でわかりやすい周知活動や指導者の育成につながる講座等の開催により、地域の人材発掘と活用を図ります。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H29 実績値	H31 目標値
		H29 目標値	
教職員1人当たりの研修受講回数（回）	2.2	3.5 2.8	3.0
地域の指導者の登録者数（人）	138	170 180	190
ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数（団体）	260	274 270	272

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 教員の研修

教員リーダー育成事業「ONE-UP研修会」においては、教員の資質・能力や豊かな人間性と社会性の向上を目指し、多種多様な業種の方の話を聞き、参加した教員で交流をしながら、研鑽を深めています。平成29年度は3回実施し、延べ192人が参加しました。

1月に行われた研修会では、義太夫三味線奏者である重要無形文化財総合指定保持者の野澤松也氏を講師に招き、浄瑠璃の歴史理解や演奏体験などを通して、新学習指導要領においても重視されている「日本の伝統文化」について理解を深めました。



「ONE-UP研修会」で
浄瑠璃体験をする様子

◆ ほっとドリームプロジェクト

ほっとドリームプロジェクトは、長野オリンピック金メダリストの清水宏保氏をリーダーとした、スピードスケートの競技者育成、底辺拡大、応援体制の充実を目的とした振興事業です。

幼児から高校生までの競技者を対象とした「スケートキングダム」をはじめ、初心者や幼児を対象とした各種教室、また、初めてスピードスケートを始める子どもの保護者のほか、指導者及び小学校の教員を対象とした講習会なども行っています。

平成29年度は、延べ3,053人の参加がありました。



スケートキングダム
(ジュニア)の様子

基本方向3	教育環境の充実
市民が生き生きと学ぶことができるよう、安全・安心で利用しやすく、環境負荷の低減にも配慮した教育環境の整備をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「学校教育の環境整備」については、小・中学校校舎の耐震化率は、目標値の100%を達成したほか、さらに、非構造部材の耐震化として屋内プール天井の落下防止対策工事も完了しています。また、平成30年度の長寿命化計画策定に向けて、対象となる41校において、学校施設の現状を把握し改修方法を検討するための劣化調査を実施しました。 (2)「社会教育の環境整備」については、図書館においてシステムの更新を行い、パソコンなどから自分の読書履歴や、新着図書のメールマガジンを受け取ることができる新たなサービスを開始したほか、ホームページをリニューアルし、レイアウトの見直しやスマートフォン表示対応などを行ったことによりアクセス数が伸びました。また、とかちプラザの1階身障者用トイレのオストメイトトイレ化修繕、百年記念館の非常用自家発電機更新や市民文化ホールの小ホール舞台装置更新など、社会教育施設の整備を行い、市民利用の利便性の向上と安全性の確保に努めました。 (3)「保育・体験活動の環境整備」については、老朽化や保育需要に対応した保育所の修繕や児童保育センターの増築や改修を行いました。また、児童会館では、期間限定ではあるもののプラネタリウムでキャラクターアニメ番組を導入したことや、室内遊びの場としての役割が浸透してきたことなどにより、入館者数は前年に比べ約8千人増加し、目標値を上回りました。
課題及び今後の方向性	(1)「学校教育の環境整備」については、中長期的な視点に立って、施設整備に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図り、施設の機能や性能を確保していくため、「(仮称)帯広市学校施設長寿命化計画」を策定することで、継続的な修繕により施設の機能維持を図り、教育環境の施設の延命化と質的な改善に努めます。 (2)「社会教育の環境整備」については、図書館において、子ども連れの利用者等の減少に伴い貸出冊数が減少したことなどから、市民1人当たりの図書等の貸出点数は目標値を下回りました。利用者の増加に向け、子育て応援バッグの貸出しや高校生の紹介本の設置など、引き続き利用者サービスの充実に努めます。また、社会教育施設の利用者数は伸びていますが、多くの施設において老朽化や更新時期を迎える設備があることから、市民の学習拠点である施設の機能を維持できるよう、施設状況を適切に把握し、施設・設備の修繕等を行い、利用者の安全性の確保を図るとともに、引き続き利用者サービスの向上に努めます。 (3)「保育・体験活動の環境整備」については、引き続き、「帯広市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、老朽化した保育所や児童保育センターの整備を進めるとともに、保護者のニーズや事業者の意向を把握しながら、需要が高い低年齢児の受け入れ枠の確保に向けた取組みや、へき地保育所の認可保育所等への移行を進めます。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H29 実績値	H31 目標値
		H29 目標値	
小・中学校校舎の耐震化率（％）	46.5	100.0	100.0
		83.5	
市民1人当たりの図書等の貸出点数（点）	5.4	5.2	7.0
		6.7	
児童会館の入館者数（万人）	10.9 (H17-19 平均)	14.6	12.0
		11.8	

※貸出点数は年間の点数

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 図書館システムの更新

図書館システムは、図書等の貸出・返却や検索等を管理するシステムで、平成29年12月に更新しました。

更新により、利用者向けの新しいサービス「My本棚機能（読書履歴・お気に入り登録）」、「新着図書メールマガジン機能」が追加されたほか、図書館ホームページをリニューアルし、スマートフォン表示にも対応するなど、より便利に図書館を利用してもらえるよう機能が向上しました。



自動貸出機、検索機（OPAC）も
リニューアルしました

◆ 児童会館プラネタリウムの活用

児童会館では、プラネタリウム活用の取組みとして、通常の番組投映のほかに、星の観察会や星空のコンサートを開催しています。平成29年度には、星の観察会6回、星空のコンサート2回を開催しました。

また、平成30年1月には、とちぎ航空宇宙産業基地誘致期成会が主となり組織された「とちぎ」から宇宙へ実行委員会の協力により、14日間の期間限定ではあるものの児童会館初のキャラクターアニメ番組の上映を行い、その間のプラネタリウムへの入場者は4,063人となりました。

これらの取組みにより、平成29年度のプラネタリウム入場者は、前年より2,363人増加しました。



プラネタリウムの様子



プラネタリウムで見る夏の星空

基本方向4	教育機会の確保
家庭の経済状況や障害の有無などに関わらず、安心して教育を受けることができるよう、教育機会の確保に向けた取組みをすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「就学・進学への支援」については、農村地域で遠距離通学となる児童生徒や、プール授業等の移動手段としてスクールバスを運行しました。また、経済的な理由により児童生徒の就学が困難な保護者へ学用品費等を支給している就学援助費については、平成29年度から新中学1年生に対する新入学学用品費を入学前に支給することとしたほか、PTA会費や生徒会費の支給を開始し、保護者の経済的負担の軽減を図りました。そのほか、高校や大学等への進学機会の確保のため、私立高等学校生徒授業料補助や奨学金により保護者の負担を軽減するとともに、市内高校の間口確保のため、「帯広市高等学校間口対策協議会」を中心に情報収集を行いました。 (2)「健やかな発達の支援」については、特別な配慮を必要とする子どもの教育的ニーズを把握しながら、学校や地域の状況、保護者や専門家の意見等を総合的に勘案しながら特別支援学級の設置を進めたことにより、設置数は目標値を上回りました。また、対象児童生徒の増加に伴い必要とされるニーズも多様化していることから、特別支援教育補助員を増員したほか、助手や生活介助員（看護師資格を有する者を含む）も継続して配置し、特別支援教育の充実を図りました。
課題及び今後の方向性	(1)「就学・進学への支援」については、老朽化が進むスクールバスの計画的な更新を進めていくほか、就学・進学における経済的負担を軽減するため、国、道や他市町村の動向も踏まえながら、今後とも就学援助等の制度を適切に運営していきます。また、市内高校の間口を維持・確保するため、引き続き「帯広市高等学校間口対策協議会」を通して情報収集や要望活動を行います。 (2)「健やかな発達の支援」については、特別な配慮を必要とする児童生徒に対し適切な支援や教育を行うため、引き続き、特別支援教育補助員や助手、生活介助員を各学校の実情を踏まえて配置するほか、合理的配慮（※）の考え方に基づいた環境の整備に努めます。 ※合理的配慮：障害のある方から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合に、負担になり過ぎない範囲で、社会的障壁を取り除くこと。

○ 参考１：成果指標の状況

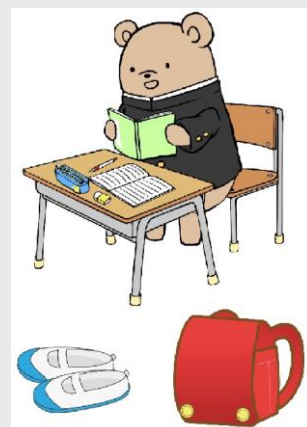
指 標 名	H19 基準値	H29 実績値	H31 目標値
		H29 目標値	
特別支援学級の設置数（学級）	38	80	59
		59	

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 就学援助費の拡充

就学援助費は、経済的な理由により児童生徒の就学が困難な世帯に対し、必要となる費用の一部を支給する制度です。修学旅行費、学校給食費、学用品費、新入学学用品費、医療費、宿泊を伴う校外活動費に加え、平成 29 年度より PTA 会費、生徒会費を追加し、保護者の経済的負担の軽減を図りました。

また、新入学学用品費については、新小学 1 年生分を 20,470 円から 40,600 円に、新中学 1 年生分を 23,550 円から 47,400 円に増額したほか、より使いやすい制度となるよう、新中学 1 年生分を入学前の 2 月に前倒して支給しました。



◆ 特別支援教育の充実

特別支援教育とは、特別な配慮を必要とする児童生徒に対し適切な支援や教育を行うことです。

児童生徒の成長に合った適切な就学を図るため、特別支援教育の専門家で構成された教育支援委員会において、就学先を決定するための教育相談を行っており、平成 29 年度は 425 件実施しました。

特別支援学級については、新たに知的学級を 1 校、病弱・身体虚弱学級を 1 校で開設しました。また、介助が必要な児童生徒のために 27 人の生活介助員を配置するとともに、発達障害などの理由により、学校生活に困り感を抱える児童生徒を支援するため、60 人の特別支援教育補助員を配置しました。



知的学級の授業の様子

基本方向5	よりよい教育のためのしくみづくり
地域の実情に応じた、より質の高い、魅力ある教育を推進するため、よりよい教育のためのしくみづくりをすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「魅力ある学校づくりの推進」については、おびひろっ子学び支援事業やおびひろっ子絆支援事業において、地域と密着した活動や人材の活用など、全小中学校で特色ある学校づくりに努めました。 (2)「学校教育のしくみの工夫改善」については、幼保・小・中間の相互連携を図るため、「帯広市エリア・ファミリー構想」にある全地区（14 エリア）においてエリア会議を開催したほか、各エリアで設定した「エリアの日」に、挨拶運動、合同避難訓練、リーフレットの配布などを行いました。また、小中一貫教育制度導入に向けた内部検討及び先進地の視察を行うとともに、小中学校適正規模適正配置の推進に向け、より良い教育環境の整備を進めるため、「帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する計画」を策定しました。 (3)「社会教育施設の利用の促進」については、特に子育て世代を中心とした図書館の利用者が前年に比べ減少したものの、とかちプラザのトレーニングルームや百年記念館の常設展示室のほか、動物園におけるチャップマンシマウマの導入など展示動物の充実にも努めたことにより、社会教育施設の総利用者数は目標値を上回りました。 (4)「地域の実情に応じた教育行政の推進」については、教育懇談会を4回、教育関係団体などとの意見交換会を2回開催し、教育委員が市民と教育行政に関する情報交流を行ったほか、その概要をホームページに掲載し、市民周知を図りました。
課題及び今後の方向性	(1)「魅力ある学校づくりの推進」については、学校支援地域本部のコーディネーター活用などにより人材発掘と確保を図り、地域と連携した教育活動の充実にも努めます。 (2)「学校教育のしくみの工夫改善」については、「帯広市エリア・ファミリー構想」の考え方を教職員はもとより、地域や保護者に広く浸透させ、帯広らしい9年間の教育プログラムの推進を図るほか、小中一貫教育の推進に関わる基本的な考え方を整理します。また、「帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する計画」に基づき、前期対象校に選定予定の大空中学校の今後のあり方について、保護者や地域住民の意見もいただきながら検討を進めます。 (3)「社会教育施設の利用の促進」については、文化施設の利用者数は増加傾向にあるものの、目標値を下回りました。また、スポーツ施設の利用者数についても、明治北海道十勝オーバルの利用が好調であるものの、平成28年の台風の影響により閉鎖中の施設があることから、目標値を下回りました。閉鎖施設の早期供用再開を目指すとともに、再開後の利用者数の回復に向けて情報発信に努めます。 (4)「地域の実情に応じた教育行政の推進」については、教育懇談会に幅広い市民や教育関係団体に参加できるよう、会場や開催方法の工夫と改善を進めるほか、各種団体などとの個別の意見交換の場の設置についても、引き続き取り組みます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H29 実績値	H31 目標値
		H29 目標値	
社会教育施設の総利用者数（万人）	95.2	110.7	95.2
		95.2	
文化施設の利用者数（万人）	54.8	55.4	60.0
		60.0	
スポーツ施設の利用者数（万人）	114.8	107.8	128.6
		128.6	

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 四館連携事業

図書館、百年記念館、動物園、児童会館の４館が連携して、魅力ある学習機会などを提供し、施設の利用促進を図るための事業を行っています。

平成 29 年度は、連携イベントの 1 つとして、夏休み中の子どもたちを対象に、「よりどりみどりがおかウィーク！」を開催しました。さらに 4 館に加え、北海道立帯広美術館とも連携し、期間中に各施設で開催されたイベントは、多くの子どもたちや親子連れでにぎわい、延べ 926 人の参加がありました。



「よりどりみどりがおかウィーク！」の様子
(工作「不思議なコマをつくろう」)

◆ 教育懇談会の開催

教育懇談会は、「開かれた教育委員会づくり」をすすめるため、教育長と教育委員が地域に出向き、教育行政に関する情報提供や市民との意見交換を行うことにより、教育に関する市民の理解や関心を高めるとともに、意見等を今後の教育行政の参考とするために実施しています。

平成 29 年度は 4 回開催し、「心を育み 学びを広げる読書」をテーマに、読書の重要性や学校の様子、図書館のあり方などの懇談を行いました。そのほか、関係する団体などとの意見交換会を 2 回開催し、学校・家庭・地域の連携に関することなど教育全般について、幅広く情報交流を行いました。



教育懇談会の様子
(川西農業者研修センター)

3 教育に関する学識経験者の意見

公益財団法人 とかち財団 理事長 長 澤 秀 行

(国立大学法人 帯広畜産大学 前学長)

帯広市教育基本計画に沿った平成 29 年度の各種取組みに関する点検・評価の結果、それぞれの事項はほぼ計画通り順調に進んでいることを確認できました。目標値と実績値の状況を見ると、全 34 指標中、今回は更に 2 指標増えて 23 指標において目標値を達成しています。関係各位のご努力に敬意を表します。

今回、目標値を達成した指標の一つは、個別目標 1-1 知識・技能の習得における標準学力検査の目標基準到達観点数です。課題を明確にして取組みを進めた結果、目標値を達成したと推察します。二つ目は、個別目標 2-2 きずなづくり・まちづくりにおける「にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興」です。おびひろ市民芸術祭に、より多くのジャンルの団体が参加しやすくなるように工夫した結果、参加団体数は前年と比べて 7 団体増加しました。また、全国・全道大会開催数の増加や、日本クラブユースサッカー選手権大会、フットボールとかちマラソン大会などの全国規模の大会が固定化したことにより、各種スポーツ大会の観客数が目標値を上回る結果となっています。

継続して目標値を達成している指標についても、大いに評価されるべきです。例えば、帯広南商業高校では就職率 100%を維持しています。これは、模擬面接などの進路指導、挨拶運動などの生活指導により、企業にとって即戦力となる人材育成に努めた結果です。同校では、補習対策や資格取得への高い意識付けを図ることにより、検定の 3 種目以上 1 級取得率も目標値を上回っています。また、小中学校において学校図書ボランティア等が行っている読み聞かせや朝読書などにより、学校図書館の児童生徒 1 人当たり貸出冊数は、小中学校ともに目標値を上回っています。「環境に関する教育・学習活動の推進」については、校長会等を通じて未認定校に対して、制度内容や、導入の意義と効果を積極的に説明し理解を促した結果、新たに 6 校が認定され、最終目標値である全 41 校の認定が前倒して達成されています。

一方で、不登校生徒の復帰率、学校給食における地場産野菜の導入率、地域の指導者の登録者数、市民 1 人当たりの図書等の貸出点数、文化施設の利用者数、スポーツ施設の利用者数などの 11 指標は、目標値未達成のままです。平成 31 年度の目標値達成に向けて、努力する必要がありますが、未達成の理由は全国的な社会現象であったり自然災害に起因するものであったり、不可避なものも含まれています。従って、目標値を達成することも重要ですが、達成できなかったとしても、未達成指標の現状と課題を明確にすることが必要です。

一般論として教育が重要であることに異論はないと思いますが、いわゆる「ひと、もの、かね」に関して課題は数多く存在します。「ふるさとの風土に学び 人がきらめき 人がつながる おびひろの教育」という帯広市教育基本計画の基本理念を達成するために、引き続き学校・家庭・地域の連携を進め、課題解決を図ることが重要です。

元社会教育委員長 樋 渡 康

平成 29 年度の点検・評価にあたり、生涯学習、学校支援等、子どもや大人の学びの場に関わる立場から意見を申し述べます。帯広市教育基本計画は、平成 31 年度が最終年度となることから、諸施策推進の成果が問われます。報告書は、平成 29 年度の実績と成果、今後の課題がわかりやすくまとめられています。実績値を見ますと、全 34 指標のうち、目標値達成が 23 指標（67.6%）に留まっていますが、前年度の 21 指標（61.8%）を上回り、加えて今後の課題及び方向性が明確に示されていて、最終年度に向けて更なる取組みに期待します。

（１）「次代を担う人づくり」では、４つの個別目標があり、重要課題である学力の向上について、学習指導要領の内容に基づき毎年度同一方式で実施している標準学力検査の結果は、41 観点（全 42 観点、前年度 37 観点）で高い水準にあり、学校における授業改善や家庭と連携した家庭学習の取組みによるものと評価できます。また、帯広南商業高校では、検定の３種目以上の１級取得率が 77.0%に達し、目標値を上回り、就職指導の充実を感じます。

「豊かな心の育成」については、学校図書館の児童・生徒 1 人当たりの貸出冊数が目標値を上回っていますが、市図書館が学級単位に本を貸し出す「ぶっくーる便」のセット数の増加、中学・高校生向けの「ヤングアダルト」の利用を高めるための方策、学校図書館の蔵書の充実が望まれます。一方、市図書館の市民 1 人当たりの図書等の貸出点数が目標値を下回り、館外活動や学校との連携が必要でしょう。また、不登校生徒の復帰率は低い状況にあり、生徒や保護者への相談体制の強化が望まれます。

「健やかな体づくり」については、栄養教諭と食育指導専門員が市内小中学校の全クラスで給食時の指導を行い、食育を推進したことが評価できます。

「人間を尊重し自然と共生する人づくり」については、環境にやさしい活動実践校として新たに 6 校認定し、最終目標値の全 41 校に達し、環境教育の推進が図られています。

（２）「ともに学びきずなを育む地域づくり」では、２つの個別目標があり、地域について学ぶ講座等への参加者数、さらに学習成果の活用事例数などがいずれも目標値を上回り、成果と言えます。また、積極的な誘致活動等により目標値を上回ったスポーツ合宿団体数や各種スポーツ大会の観客数は増加しており、スポーツ振興、技術向上の面からも効果が期待されます。

（３）「基本目標を実現するための基盤づくり」では、「学校・家庭・地域の連携」のほか 4 つの基本方向がありますが、「帯広市エリア・ファミリー構想」や「こども学校応援地域基金プロジェクト」の具体的な取組み等もあり、学校支援ボランティアを活用した学校数が最終目標値に達したほか、新小中学 1 年生への就学援助費の増額や入学前支給、特別支援学級の自校化を推進する中での生活介助員、特別支援教育補助員の増員等、評価できる多くの施策が見られます。

教育の取組みは、行政はもとより、学校、家庭、地域等多くの市民の理解、協力が不可欠です。教育委員会はより積極的に充実した情報発信に努め、事業の推進に取り組むことを期待します。

参 考 資 料

○ 平成29年度教育委員会の活動状況

(1) 帯広市教育委員名簿

平成30年3月31日現在

役職	氏名	備考
教育長	嶋崎 隆則	平成28年10月26日就任
委員（教育長職務代理者）	田中 厚一	平成19年4月1日就任（平成28年10月26日職務代理者就任）
委員	藤澤 郁美	平成27年6月23日就任
委員	佐々木 しゅり	平成28年6月23日就任
委員	塩野谷 和男	平成28年12月21日就任

(2) 教育委員会会議の開催状況（平成29年度）

期日	番号	案件
第7回 平成29年4月28日	議案第25号 議案第26号 議案第27号 議案第28号 報告第11号 その他	帯広市教科用図書選定委員会条例施行規則の一部改正について 帯広市社会教育委員の解職について 帯広市社会教育委員の委嘱について 職員の人事について とかちプラザ運営審議会委員の解職及び委嘱について (1)学力の向上・定着に向けた基本的な考え方について (2)体力・運動能力等の向上に向けた基本的な考え方について (3)帯広市いじめ防止に関わる基本的な考え方について (4)帯広市社会教育委員会議研究協議報告書について (5)今後の事業予定について (6)寄附受納について
第8回 平成29年5月22日	議案第29号 議案第30号 議案第31号 報告第12号 報告第13号 報告第14号 その他	平成29年度帯広市一般会計補正予算について 職員の人事について 職員の人事について 帯広市教育支援委員会委員の解職及び委嘱について 帯広市奨学生選考委員会委員の委嘱について 帯広市図書館協議会委員の解任及び任命について (1)国の文化審議会の答申について (2)今後の事業予定について (3)寄附受納について
第9回 平成29年6月28日	報告第15号 報告第16号 報告第17号 報告第18号 報告第19号 その他	帯広市教科用図書選定委員会委員の委嘱について 平成29年度「おびひろっ子学び支援事業」及び 「おびひろっ子絆支援事業」について 帯広市教育研究所運営委員会委員の委嘱について 帯広市学校給食センター運営委員会委員の任命について 帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについて (1)帯広市議会6月定例会の報告について (2)今後の事業予定について (3)寄附受納について
第10回 平成29年7月21日	議案第32号 議案第33号 報告第20号 報告第21号 報告第22号 報告第23号 その他	教職員の処分内申について 帯広市社会教育委員の委嘱について 帯広市文化財審議会委員会委員の委嘱について 帯広市民文化ホール運営審議会委員の委嘱について 帯広百年記念館運営審議会委員の委嘱について 帯広市スポーツ推進審議会委員の任命について (1)今後の事業予定について (2)寄附受納について
第11回 平成29年8月4日	議案第34号 議案第35号 議案第36号 その他	小学校用教科用図書の採択について 中学校用教科用図書の採択について 高等学校用教科用図書の採択について 教科用図書の採択に係る情報の公表について
第12回 平成29年8月29日	議案第37号 議案第38号 報告第24号 報告第25号 報告第26号 その他	平成28年度帯広市一般会計歳入歳出決算認定について 平成29年度帯広市一般会計補正予算について （仮称）帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する計画（原案） について 教職員の処分について 帯広市学校給食センター運営委員会委員の解任及び任命について (1)今後の事業予定について (2)寄附受納について

期日	番号	案件
第13回 平成29年9月22日	議案第39号 議案第40号 議案第41号	職員の人事について 平成29年度帯広市スポーツ賞及びスポーツ奨励賞の決定について 平成29年度帯広市文化賞及び文化奨励賞等の決定について
第14回 平成29年10月25日	議案第42号 議案第43号 議案第44号 議案第45号 報告第27号 その他	教職員の処分内申について 平成30年度帯広市立高等学校の入学者募集について 帯広市図書館条例施行規則の一部改正について 平成29年度帯広市市民文芸賞及び市民文芸準賞の決定について 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について (1) 帯広市議会9月定例会の報告について (2) 平成29年度教育懇談会の開催について (3) 今後の事業予定について (4) 寄附受納について
第15回 平成29年11月2日	議案第46号 報告第28号 報告第29号	平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について (仮称) 第二期帯広市教育基本計画の策定方針について 平成30年度の帯広市立中学校の通学区域変更について
第16回 平成29年11月27日	議案第47号 報告第30号 その他	平成29年度帯広市一般会計補正予算について とかちプラザ運営審議会委員の委嘱について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について
第17回 平成29年12月27日	議案第48号 報告第31号 その他	帯広市小、中学校通学区域規則の一部改正について 平成29年度とかちジュニア文芸各賞の決定について (1) 帯広市議会12月定例会の報告について (2) 教育懇談会の概要報告について (3) 今後の事業予定について (4) 寄附受納について
第1回 平成30年1月31日	報告第1号 その他	平成29年度帯広市教育研究実践表彰及び帯広市学校文化活動奨励賞について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について
第2回 平成30年2月6日	議案第1号 議案第2号 報告第2号 報告第3号	平成29年度帯広市一般会計補正予算について 平成30年度帯広市一般会計予算について 帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する計画(案)について 教職員の処分について
第3回 平成30年2月22日	議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号 議案第8号	平成29年度帯広市一般会計補正予算について 帯広市教育委員会教育長給与条例の一部改正について 帯広市職員定数条例の一部改正について 公の施設の指定管理者の指定について(札内川河川敷運動施設) 公の施設の指定管理者の指定について(十勝川河川敷運動施設) 職員の人事について
第4回 平成30年3月22日	議案第9号 議案第10号 議案第11号	教員の人事内申について 職員の人事について 職員の人事について
第5回 平成30年3月27日	議案第12号	職員の人事について
第6回 平成30年3月29日	議案第13号 議案第14号 議案第15号 議案第16号 報告第4号 報告第5号 報告第6号 報告第7号 その他(1) その他(2) その他(3)	帯広市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 帯広市学校管理規則等の一部改正について 帯広市体育施設条例施行規則の一部改正について 帯広市教育施策推進委員会設置規程の一部改正について 平成30年度帯広市学校教育指導の重点について 帯広市いじめ防止等に関する基本的な方針について 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について 教職員の処分について (1) 帯広市議会3月定例会の報告について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について

・教育委員会会議開催回数 17回

議決案件	40件	うち非公開	28件(うち所定の手続き後会議録を公開	18件)
報告案件	28件	うち非公開	12件(うち所定の手続き後会議録を公開	9件)
その他	32件	うち非公開	1件(うち所定の手続き後会議録を公開	1件)

〔参考〕教育委員会会議の非公開について

教育委員会会議は、公開が原則ですが、個人の権利を侵害するおそれのあるもの、職員の任免、賞罰、人事等、議会の議案に係る意見申出、訴訟、不服申立てに係るもの、教育行政の公正、円滑な運営に支障が生じるおそれがあるものなどについては、出席委員の3分の2以上の多数で、公開しないことができます。(帯広市教育委員会会議規則第16条)

(3) 課題研究協議会開催状況（平成29年度）

回数	期日	テーマ
1	平成29年5月22日	教科用図書の採択について 教育委員と社会教育委員との懇談について
2	平成29年6月28日	適正規模の確保等に関する計画について
3	平成29年7月21日	教科用図書の採択について
4	平成29年8月29日	（仮称）帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する計画（原案）について
5	平成30年2月6日	帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する計画（案）について
6	平成30年2月27日	帯広市小中一貫教育に関する検討報告書について 帯広市いじめ防止基本方針について

(4) 総合教育会議の開催状況（平成29年度）

期日	番号	案件
第1回 平成30年1月31日	協議事項	（仮称）帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する計画（原案）について

〔参考〕総合教育会議について

帯広市総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に基づき設置するもので、以下の事項について、帯広市長と帯広市教育委員会による協議及び事務の調整等を行うこととしています。

- (1) 帯広市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定
- (2) 帯広市の教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき措置
- (3) 児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置

(5) 研修会参加状況（平成29年度）

期日	場所	研修会等	出席者
平成29年8月22日	稚内市	平成29年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会	1人
平成29年11月30日	帯広市	平成29年度十勝管内市町村教育委員研修会	2人
平成30年1月25日	東京都	市町村教育委員研究協議会	1人
平成30年2月23日	釧路市	教育行政視察	3人

4回 延べ7人

(6) 行事等参加状況（平成29年度）

期日	行事名	出席者数
平成29年4月10日	市内小学校入学式	3人
平成29年4月10日	市内中学校入学式	2人
平成29年4月11日	帯広南商業高等学校入学式	4人
平成29年4月21日	帯広市体育連盟定期総会	1人
平成29年5月28日～ 平成29年5月29日	市内中学校体育祭	10人
平成29年5月28日～ 平成29年6月11日	市内小学校運動会	3人
平成29年6月28日	帯広市社会教育委員との意見交換	5人
平成29年6月30日～ 平成29年11月17日	市内小中学校公開研究会等	57人
平成29年9月6日	平成29年度帯広市教育講演会	2人
平成29年9月23日	帯広市功労者表彰式	1人
平成29年10月9日	平成29年度帯広市スポーツ賞・スポーツ奨励賞贈呈式	5人
平成29年10月17日	ふるさと給食（明星小学校）	5人
平成29年11月1日～ 平成29年11月15日	教育懇談会	12人
平成29年11月3日	平成29年度帯広市文化賞・文化奨励賞贈呈式	4人
平成29年11月5日	キッズタウン	1人
平成29年12月2日	市民文芸賞表彰式	5人

期日	行事名	出席者数
平成30年1月4日	帯広市新年交礼会	4人
平成30年1月8日	帯広市成人の集い	3人
平成30年1月27日	体育連盟功労者授賞式	1人
平成30年1月30日	交流給食会（帯広小学校）	4人
平成30年2月25日	とかちジュニア文芸賞表彰式	4人
平成30年2月27日	帯広市PTA連合会役員との意見交換	5人
平成30年2月28日	平成29年度帯広市教育研究実践表彰及び文化活動奨励賞授賞式	2人
平成30年3月1日	帯広南商業高等学校卒業式	4人
平成30年3月5日	教育実践表彰（明星小学校）	3人
平成30年3月15日	市内中学校卒業式	5人
平成30年3月23日	市内小学校卒業式	5人
平成30年3月27日	給食試食会	1人
平成30年3月31日	教職員辞令交付式	5人

延べ166人

○ 平成29年度教育行政執行方針(抜粋)

1. 基本的な考え方

帯広市教育委員会としては、わが国における教育を取り巻く環境の変化を踏まえて、本市の教育大綱でもある帯広市教育基本計画の基本理念として定めた、「ふるさとの風土に学び 人がきらめき 人がつながる おびひろの教育」を実現するため、引き続き、次の3つの柱により、それぞれの施策を進めてまいります。

一つ目の基本目標「次代を担う人づくり」では、知識や技能といった「認知的能力」と、意欲や協調性、勤勉さなどの「非認知的能力」を、地域と関わりを持ちながら、児童生徒がバランスよく身につけられる教育活動を推進します。また、時代の変化に適応し、自立して生活できるよう、市民の主体的な学習活動を促進します。

二つ目の基本目標「ともに学びきずなを育む地域づくり」では、市民によるまちづくりへの参画を一層推進するため、郷土文化に対する理解や、学校や社会教育施設での活発なボランティア活動の促進などに取り組みます。

三つ目の「基本目標を実現するための基盤づくり」では、中学校区を中心として幼稚園・保育所・小学校などの連携を推進するとともに、義務教育9年間を見通した児童生徒の学びをさらに深めるため、小中一貫教育について検討します。さらに、学校が家庭や地域と連携を進め、地域ぐるみで子どもや学校を応援する取組みの充実を図るほか、経済的に困難な家庭への就学支援を拡充します。また、新たな総合体育館の整備を進めるとともに、社会教育施設の利用促進を図ります。

2. 主な取組み

(1) 次代を担う人づくり

児童生徒の学習活動では、学校が家庭や地域、社会教育施設などと連携しながら、体験活動や外国語学習、食育など幅広い分野において、帯広の地域性や自然を教材として、様々な学習を取り入れる、帯広版アクティブ・ラーニングを推進します。

また、いじめや不登校については、適応指導教室やこころの教室相談員など、個別相談・支援体制を引き続き推進し、未然防止や早期解決に努めます。

生涯学習においては、市民の学習ニーズの多様化を踏まえ、市民大学講座などにおいて、引き続き、魅力ある学習機会の提供に努めます。

また、クロスカントリースキーを中心とした冬を楽しむイベントを開催し、市民の冬期間における体力・健康づくりや人と人との交流を図ってまいります。

（２）ともに学びきずなを育む地域づくり

百年記念館の博物館講座、図書館の郷土資料展示などを引き続き実施し、地域の歴史・文化を学び、郷土理解を深める機会を提供します。

また、図書館など社会教育施設において、ボランティア養成講座を引き続き開催するとともに、学びを生かせる自主活動の場を提供してまいります。このほか、市民が主体的に実施する能楽の公演や体験教室の取組みを支援するなど、市民が良質な芸術・文化にふれる機会を提供します。

（３）基本目標を実現するための基盤づくり

エリア・ファミリーで進められている義務教育９年間を通した小中学校の連携をさらに深めながら、帯広市における小中一貫教育への対応について検討を行うほか、小中学校における適正規模の確保等に向けた計画を策定します。

また、学校・家庭・地域が連携して子どもを育む、こども学校応援地域基金プロジェクトを推進し、学校支援地域本部をはじめとする様々な団体の交流を深め、人材の育成や活動の充実に取り組みます。

このほか、就学援助については、新たにＰＴＡ会費・生徒会費を支給費目に加え、保護者の経済的負担の軽減を図ります。

新たな総合体育館の整備運営については、帯広市で初めてとなるＰＦＩ方式により、設計及び本体工事に着手してまいります。

また、図書館、百年記念館、動物園、児童会館において、四館連携事業を引き続き実施し、社会教育施設の利用促進につながる、魅力ある学習機会を提供してまいります。

○ 平成29年度予算決算

単位 (円)

科 目	予算現額	決算額	翌年度繰越額	主な内容
教育費	5,458,339,080	5,230,628,782	112,375,000	
教育総務費	242,152,000	227,520,928	0	
教育委員会費	5,180,000	4,824,500	0	教育委員報酬及び会議等の出席に係る旅費等
事務局費	117,469,000	106,878,226	0	事務局運営費、教職員管理費、奨学金貸付事業等
指導研修費	80,801,000	78,354,030	0	教育相談員・学校評議員・外国人講師に係る報酬等
教育研究所費	20,539,000	19,897,097	0	所員報酬、教育研究所運営費等
教職員住宅費	18,163,000	17,567,075	0	教職員住宅の修理費、教職員住宅の建設工事費等
小学校費	1,392,498,080	1,245,801,947	112,375,000	
学校管理費	777,162,000	767,693,130	0	小学校管理費、プール・リンク造成・維持管理費、学校保健事業費、スクールバス運行事業費等
学校営繕費	39,587,000	39,020,884	0	学校営繕費
教育振興費	249,239,000	240,085,089	0	教材教具購入費、就学援助費、学校図書資料整備費、教育用コンピュータ管理費等
施設整備費	326,510,080	199,002,844	112,375,000	学校・学習環境整備費、リニューアル改修事業費
中学校費	737,157,000	719,069,077	0	
学校管理費	310,018,000	305,046,790	0	中学校管理費、リンク造成・維持管理費、学校保健事業費、スクールバス運行事業費等
学校営繕費	21,496,000	21,304,838	0	学校営繕費
教育振興費	222,387,000	215,573,842	0	教材教具購入費、就学援助費、学校図書資料整備費、教育用コンピュータ管理費等
施設整備費	183,256,000	177,143,607	0	学校・学習環境整備費、リニューアル改修事業費
高等学校費	82,339,000	79,250,804	0	
学校管理費	58,890,957	56,492,578	0	南商管理費、学校保健事業費、外国人英語指導助手報酬等
学校営繕費	3,915,043	3,915,043	0	南商営繕費
教育振興費	18,733,000	18,214,314	0	教材教具購入費、学習環境管理費、キャリア教育推進費
施設整備費	800,000	628,869	0	

単位（円）

科	目	予算現額	決算額	翌年度繰越額	主な内容
	社会教育費	866,902,000	851,788,460	0	
	社会教育総務費	11,802,000	10,963,030	0	社会教育委員、嘱託職員等報酬、講座開催経費等
	文化振興費	25,989,000	23,509,402	0	文化団体等補助金、事業開催負担金、文化財経費等
	とかちプラザ費	190,940,000	190,201,129	0	とかちプラザ管理費
	市民文化ホール費	147,786,000	147,690,973	0	市民文化ホール管理運営費、機器類リース料等
	百年記念館費	121,567,000	116,616,458	0	百年記念館管理運営費、学芸調査員等報酬、講座開催経費等
	図書館費	198,994,000	195,477,216	0	図書館管理運営費、図書資料等整備費、郷土資料関連経費等
	動物園費	141,673,000	139,827,085	0	動物園管理運営費、遊具管理費、施設修繕等
	市民ギャラリー費	28,151,000	27,503,167	0	市民ギャラリー管理費
	保健体育費	2,137,291,000	2,107,197,566	0	
	保健体育総務費	62,061,000	57,484,186	0	スポーツ行事・活動関係経費、団体育成・大会開催費、学校開放経費、指導者育成経費等
	体育施設費	941,989,000	938,345,521	0	社会体育施設管理運営費、施設修繕・改修費等
	学校給食センター費	1,133,241,000	1,111,367,859	0	学校給食センター管理費、賄材料費、委託料、学校給食食育推進費等

※翌年度繰越額は、繰越明許費

○ 平成 29 年度における主な取組み一覧

(1) 次代を担う人づくり

① 知識・技能の習得

展 開 方 策	主 な 取 組 み
子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進	全国学力・学習状況調査、C R T 標準学力検査、おびひろっ子学び支援事業、おびひろっ子絆支援事業、外国人講師の小中学校派遣、教育課程検討委員会、学力向上推進班（学力向上推進プロジェクトチーム含む）学級経営・授業改善ワンポイント講座開催（2 回、延べ 74 人参加）、データベース教材の作成（国語科 言葉についての基礎・基本問題）、南商での外国人英語指導助手配置（1 人）、ぶっくーる便（534 件、18,690 冊）、パスファインダー（全 49 種類のうち 15 種類改訂）、とかちジュニア文芸第 8 号（応募者数 260 人、284 作品）、調べてみよう動物のこと（20 人）、なぜ？どうして？どうぶつ謎ナゾ講座（10 人）、小説・童話教室（6 人）、短歌・俳句教室（1 人）、詩教室（4 人）、小学生の 1 日飼育係（2 回、23 人）、親子で挑戦！動物園のミステリークイズ（2 回、28 人）、幼児・児童動物画写生コンクール（264 人）
個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進	コミュニティ講座（23,983 人）、生涯学習情報誌（情報誌「まなびや」成人向け 4 回、小学生向け 2 回）、自然観察会（16 人）、郷土学習見学会（62 人）、博物館講座（827 人）、連続講座（22 人）、地質講座（175 人）、体験教室（526 人）、企画展（5,943 人）、収蔵作品展（1,809 人）、レファレンス、地域防災訓練（帯広第一中、600 人）、冬季防災訓練（帯広小、192 人）、防災セミナー in とかち 2017（210 人）、防災グッズ展（889 人）、学校での避難訓練（全小中学校、南商）、防災リーダー研修会（80 人）、防災講師派遣事業（8 団体、343 人）、防犯グッズ展、防犯講話（32 団体、1,583 人）、交通安全教室（376 回、38,081 人）、消費者講座・講演会（8 回、377 人）、地域消費者講座（27 回、796 人）、消費者被害予防教育講座（23 回、1,585 人）、みんなの消費生活展（1,927 人）、防災出前講座（78 団体、3,360 人）、親子防災講座（44 団体、4,916 人）
職業に関する教育・学習活動の推進	おびひろキッズタウン 2017（27 企業等、児童 363 人）、南商インターンシップ事業（協力事業者 50 事業者）
高度情報化に対応した教育・学習活動の推進	教育用パソコンの活用（1,505 台）、携帯電話販売店の立入調査（25 店）、帯広市ネット非行対策講演会

② 豊かな心の育成

展 開 方 策	主 な 取 組 み
子どもの社会性の育成	郷土体験学習（小学 4 年生対象）、自然体験学習（中学生対象）、適応指導教室の開設、教育相談員の配置、いじめ・不登校・非行等に関する対策委員会の設置、生徒指導アドバイザーの派遣（こころの教室相談員 6 人配置・家庭訪問相談員 5 人配置）、スクールソーシャルワーカーの配置（2 人）、南商におけるボランティア活動（32 クラブ）、放課後子ども広場の実施（26 校、延べ 737 回、延べ 22,413 人）、中学生からのメッセージ事業、大人の集い（1,132 人）、地域子ども会リーダー宿泊研修会（187 人）、ジュニアリーダー養成講座「あすかの会」（24 人）、ジュニアリーダー「あるふあの会」（43 人）、子ども王国の開催、十勝子ども雪合戦（50 チーム、287 人）、児童会館での体験活動（文化関連事業 7,657 人、宿泊学習等 3,643 人）、巡回指導（466 回）、声かけ指導（407 人）、ヤングテレホン相談（127 件）、子ども親善訪問団相互派遣事業（徳島市 5 人派遣・5 人受入、松崎町 9 人派遣・10 人受入、大分市 6 人派遣・6 人受入）
豊かな情操の育成と生きがいづくり	学校図書館の図書資料の整備・充実（5,122 冊）、司書教諭の配置（29 校、29 人）、図書館・学校連携事業（ぶっくーる便 534 件・18,690 冊、学校図書館クリニック 2 校）、コミュニティ講座（23,983 人）、高齢者学級（187 人）、生き生きふれあい祭（わかば会）、第 36 回おびひろ市民芸術祭（入場者数 18,035 人）、よしもと漫才の DENDO 全国ツアー帯広公演（1,054 人）、フォレスタ・コンサート in 帯広（1,180 人）、葉加瀬太郎コンサートツアー2017（1,522 人）、NHK 公開録画「新BS日本のうた」（1,299 人）、古楽器によるヘンデル「メサイア」帯広演奏会（1,148 人）、高田泰治「チェンバロリサイタル」（137 人）、おびひろ能（642 人）、東京バレエ団 子どものためのバレエ「ねむれる森の美女」（910 人）、木管五重奏が語る音楽ものがたり「ピーターとおおかみ」（167 人）、第 29 回親と子のわくわく音楽会（747 人）、小中学生のための札幌コンサート（1,859 人）、帯広市民文化ホールロビーコンサート（23 人）、幼児向けプチコンサート（128 人）、帯広美術館特別企画展 放浪の天才画家山下清展（27,874 人）、第 2 回帯広少年少女合唱祭（665 人）、帯広市文化賞（1 個人・1 団体）、市民文芸第 57 号（応募者数 114 人、1,172 作品）、とかちジュニア文芸第 8 号（応募者数 260 人、284 作品）、語り手育成講習会（2 講座、4 回、72 人）、劇団四季鑑賞事業「嵐の中の子どもたち」（1,381 人）

③ 健やかな体づくり

展 開 方 策	主 な 取 組 み
健やかな体を育むスポーツ活動等の推進	帯広市体力・運動能力調査、スポーツ教室・講習会（169 回）、スポーツ・レクリエーション事業（3 事業）、総合型地域スポーツクラブ（4 団体）、スポーツ少年団登録（76 団体、1,751 人）
食育の推進と学校給食の充実	食育推進委員会の開催、食育レシピ集の作成・配布、食育講演会（1 回）、栄養教諭等による給食指導・教科指導、「ふるさとの日」給食の実施（9 月～11 月の各月・3 コース各 1 日）、親子で給食づくり（2 回、45 人）、食育指導専門員の配置（2 人）、農業技術センター展示ほ場見学（1,037 人）、帯広の森サラダ館学童農園（22 団体、2,014 人）、とかちマルシェにおける食育推進ブース出展、食育推進サポーター登録（団体・個人 32）、保育所での食育講座（9 所、9 回、150 人）、保育所給食試食会（1,096 人）、こどもクッキング（76 回）

④ 人間を尊重し自然と共生する人づくり

展 開 方 策	主 な 取 組 み
人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進	児童虐待防止推進月間パネル展、児童虐待防止啓発カードの作成、男女共同参画セミナー（1 回、88 人）、女と男の一行詩作品募集・展示（828 作品、397 人）、男女共同参画情報誌の発行（年 2 回、各 3,000 部）、男女共同参画講座（4 回、127 人）、社会参画支援講座（2 回、30 人）、デートDV予防講座（4 回、959 人）、UD 講座の開催（10 回、365 人）、手話に関する出前講座（13 回）
グローバル化に対応した教育・学習活動の推進	小中学校に外国人講師派遣、長期休業中に学校の希望に応じて外国人講師派遣、「Obihiro サマーイングリッシュ・ウインターイングリッシュ」の開催、南商での外国人英語指導助手配置（1 人）、マディソン市派遣（生徒 5 人、引率教員 1 人）、高校生相互派遣事業（米国スワード市 5 人派遣・受入なし）、市民交流団体の国際交流活動への支援（2 団体）
環境に関する教育・学習活動の推進	帯広らしい環境教育プログラム集の発行・配布、帯広らしい環境教育ホームページによる情報発信、児童会館科学展示室（入場者 31,257 人）、プラネタリウム上映（入場者 13,674 人）、児童会館での科学教室・工作教室等（7,390 人）、出前環境教室（61 件、2,271 人）、環境にやさしい活動実践校認定（全 41 校、小 26 校・中 14 校・高 1 校）、ごみ懇談会・エコエコ紙芝居・環境学習支援事業（合計 31 回、1,097 人）、中高生の 1 日飼育係（2 回、5 人）、大人の 1 日飼育係（4 回、16 人）、親子で挑戦！動物園のミステリークイズ（2 回、28 人）、夜の裏側探検隊（2 回、57 人）、冬の裏側探検隊（1 回、43 人）、スポットガイド（随時）、ふれあい教室（77 組、2,204 人）、よるの動物園（4 日、7,641 人）、秋の裏側探検隊（1 日、38 人）、春の裏側探検隊（1 日、24 人）

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

① ふるさとの理解の促進

展 開 方 策	主 な 取 組 み
子どものふるさと教育の推進	郷土体験学習（小学 4 年生対象）、自然体験学習（中学生対象）、ふるさと学習農園（2 校）、アイヌ民族文化理解促進指導用教材の作成（副読本おびひろ）
地域に関する学習活動の推進	地域の学習情報・指導者情報のホームページでの提供、市民大学講座（59 講座、受講者 4,061 人）、コミュニティ講座（23,983 人）、高齢者学級（187 人）、生涯学習情報誌の発行、アイヌ民族文化情報センター「リウカ」の活動、埋蔵文化財センターの活動

② きずなづくり・まちづくり

展 開 方 策	主 な 取 組 み
まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進	中学生からのメッセージ事業、成人の集い（1,132 人）、地域子ども会リーダー宿泊研修会（187 人）、ジュニアリーダー養成講座「あすかの会」（24 人）、ジュニアリーダー「あるふあの会」（43 人）、南商におけるボランティア活動（32 クラブ）、市民大学講座（59 講座、受講者 4,061 人）、コミュニティ講座（23,983 人）、生涯学習情報誌の発行、生涯学習コーディネーターの支援、語り手育成講習会（2 講座、4 回、72 人）、百年記念館の常設展示解説（18 回）、レコードコンサート（12 回）
にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興	第 36 回おびひろ市民芸術祭（入場者数 18,035 人）、明治オーバル利用大会（開催数 67 大会）、日韓競技大会（開催種目 2 種目）、スケートキングダム開催（4 回）、プロスポーツ大会（3 回）、スポーツ合宿誘致（216 団体）、フードバレーとかちマラソン大会（6 回目）、日本クラブユースサッカー選手権大会（7 年連続開催）

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

① 学校・家庭・地域の連携

展 開 方 策	主 な 取 組 み
開かれた学校づくり	公開研究会、地域公開参観日の実施、学校図書館開放事業、教職員住宅の整備（改築：帯広第七中）、学校開放学校数（29 校）、学校評議員設置（全小中学校 191 人、南商 5 人）、新任学校評議員研修会、学校評議員だより（年 3 回）、南商学校開放講座（10 人）

家庭教育への支援	地域子育て支援センター（6 か所、延べ相談件数 3,837 件、延べ利用組数 32,103 組）、子育てメール通信登録（1,623 件）、子育て応援ボランティア（16 団体、151 人）、子育て講座（7 か所、272 回）、子育て応援事業所（269 事業所）、家庭教育学級（11 学級、128 人）、ファミリーサポートセンター事業（620 人、866 件）、子育てガイドブック（2,600 冊）、発達支援ガイドブック「あくせす」（350 冊）、生活支援ファイル「つなぐっと」の配布（657 冊）、絵本との出会い事業（36 回）、あそびの広場（195 回、1,263 組、2,852 人）、サンデーファミリー事業（12 回、211 組、586 人）、こんにちは赤ちゃん訪問（564 回）、小中学生の保育体験・保育ボランティアの交流（25 所（園））、高校生と幼児の交流（17 所（園））、町内会・老人クラブとの交流（144 回）、おはなし会（112 回、3,925 人）、わくわく♪ドキドキ！！家読（うちどく）にチャレンジ！（1 回、26 人）、夏休み親子陶芸教室（3 回）、冬休み親子陶芸教室（2 回）、親子七宝教室（1 回）、親子で挑戦！動物園のミステリークイズ（2 回、28 人）
家庭や地域による教育支援の推進	「こども応援！みらいカフェ」の実施（5 会場）、学校支援地域本部の設置（全小中学校 40 校）、子どもの見守り活動実施（全小中学校 40 校）、子ども 110 番の家設置登録（1,081 所）、放課後子ども広場の実施（26 校、延べ 737 回、延べ 22,413 人）

② 教育を支える人材の育成

展 開 方 策	主 な 取 組 み
教員の人間力・指導力の向上	学校指導訪問での指導・助言、教員リーダー育成講座（3 回）、中央教育課題思潮等調査研究事業（3 人）、パソコン研修講座（延べ 922 人）、研究紀要「帯広の子ども」の学力」発行、全道教科担当指導主事研究協議会、教育課程検討委員会、帯広市教育研究会事業補助、公開研究会
地域人材の発掘・育成・活用	地域の指導者の登録者数（170 人）、第 16 回新人演奏会（351 人）、帯広市文化賞（1 個人・1 団体）、スポーツ指導者の講習会・研修会（開催数 3 回）、少年団指導者認定講習会（2 回）、スポーツ大会派遣補助（223 件、968 人）、体育連盟加入団体（45 団体、48,280 人）、ほっとドリームプロジェクト（競技者の育成事業 4 回、底辺の拡大事業 5 回）

③ 教育環境の充実

展 開 方 策	主 な 取 組 み
学校教育の環境整備	温水ボイラー改修（小学校 2 校）、グラウンド整備（小学校 1 校）、トイレ大規模改造（平成 28 年度着手、平成 29 年度完成、小学校 1 校、中学校 1 校）、机・椅子更新（中学 1 年生分 1,435 セット）、「帯広市子供安全ネットワーク」の運用と改善

社会教育の環境整備	とかちプラザ館内各機器修繕・更新及び備品修理、百年記念館非常用自家発電機更新・屋根等修繕、動物園給水管更新の設計・工事、ブリーディングローンによるチャップマンシマウマの導入、帯広の森体育館暖房設備改修工事、アイスアリーナ冷凍機修繕、新総合体育館整備運営事業
保育・体験活動の環境整備	児童保育センターの増築（1所）・改修（3所）

④ 教育機会の確保

展 開 方 策	主 な 取 組 み
就学・進学への支援	就学援助認定（小 1,625 人、中 1,029 人）、私立高等学校生徒授業料補助（213 人）、奨学金貸付（大学生 58 人、専門学校生 8 人、高校生 3 人）、幼稚園就園奨励費の支給（1,096 人）、帯広市高等学校間口対策協議会の開催（1 回）
健やかな発達の支援	就学に関する教育相談の実施（425 件）、特別支援教育助手の配置（9 人）、特別支援教育補助員の配置（60 人）、生活介助員の配置（27 人）、特別支援学級の開設（知的学級 1 校、病弱・身体虚弱学級 1 校）、障害者高等教育補助（132 人）、特別支援保育（26 所）

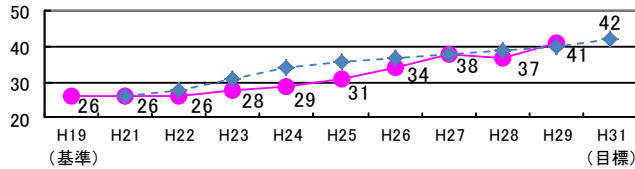
⑤ よりよい教育のためのしくみづくり

展 開 方 策	主 な 取 組 み
魅力ある学校づくりの推進	おびひろっ子学び支援事業、おびひろっ子絆支援事業（全小中学校 40 校）、小規模特認校就学（児童 4 人）
学校教育のしくみの工夫改善	帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する計画策定に向けた意見交換会の開催（18 回、延べ 286 人）、帯広市幼保小中連携推進委員会の設置、帯広市エリア・ファミリー構想の推進（市内全 14 エリアで協議の場を設置）、幼保小中連携エリア実践交流会（参加 55 人）
社会教育施設の利用の促進	社会教育施設連携アクションプログラムの充実（「よりどりみどりがおかウィーク！」）、ホームページでのスポーツ活動情報提供（24 項目）
地域の実情に応じた教育行政の推進	教育懇談会（4 回、60 人）、教育関係団体などとの意見交換（2 回、25 人）、教育懇談会の実施概要及び教育委員会会議の会議録のホームページでの公開

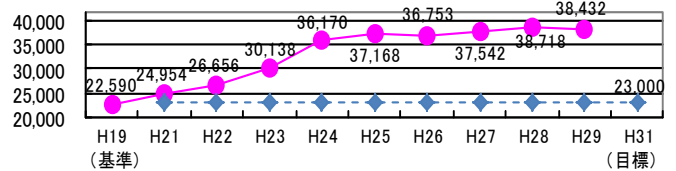
○ 成果指標の推移

※実線は実績値。点線は目標値。

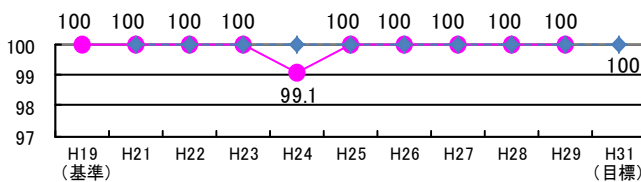
① 個別目標 1－1：知識・技能の習得



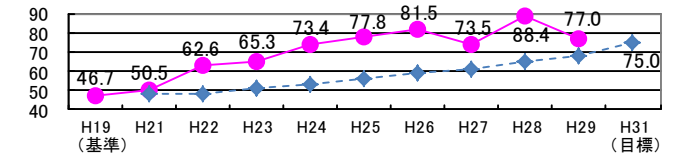
参考図1. 標準学力検査の目標基準到達観点数 (観点)



参考図2. 帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数 (人)

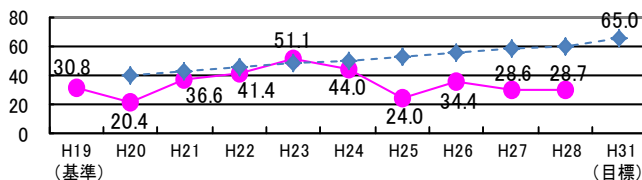


参考図3. 帯広南商業高等学校の就職率 (%)

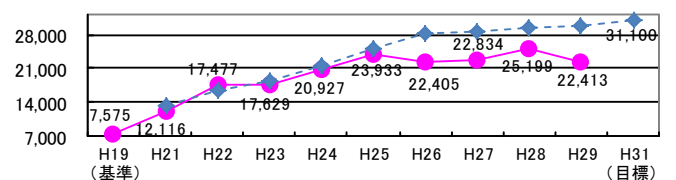


参考図4. 帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率 (%)

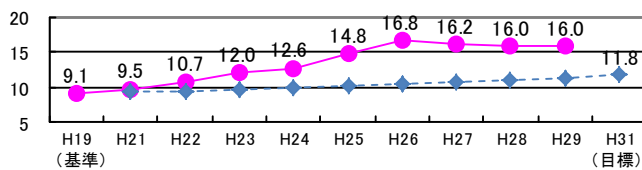
② 個別目標 1－2：豊かな心の育成



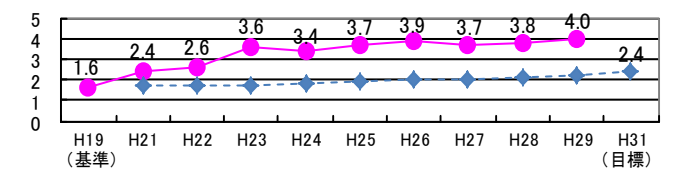
参考図5. 不登校生徒の復帰率 (%)



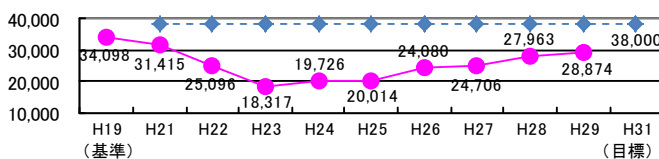
参考図6. 子どもの居場所づくり参加児童数 (人)



参考図7. 小学校図書館の児童1人当たり貸出冊数 (冊)



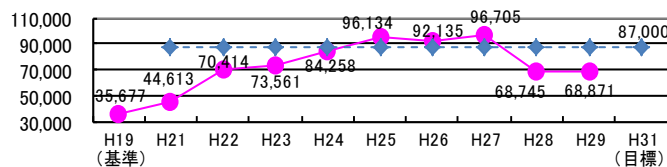
参考図8. 中学校図書館の生徒1人当たり貸出冊数 (冊)



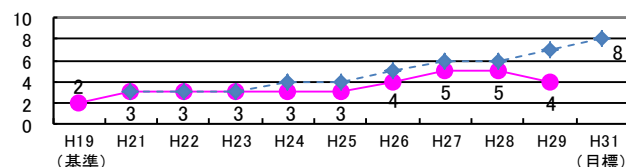
参考図9. 鑑賞事業の入場者数 (人)

※実線は実績値。点線は目標値。

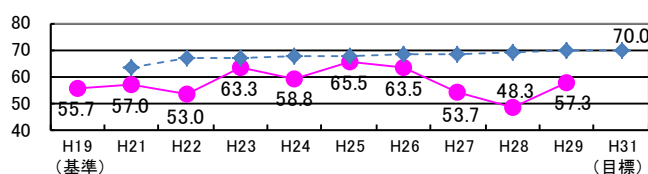
③ 個別目標１－３：健やかな体づくり



参考図１０. スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数（人）

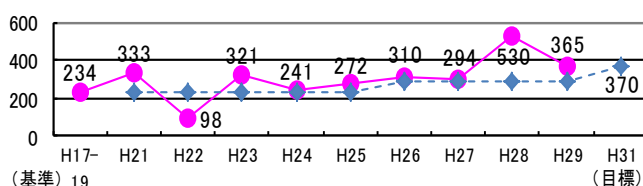


参考図１１. 総合型地域スポーツクラブ設置数の（か所）

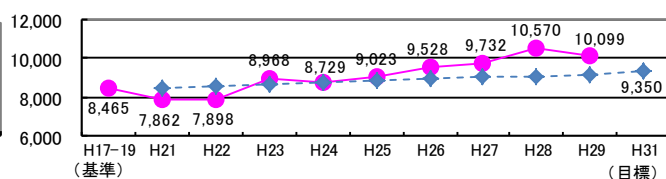


参考図１２. 学校給食における地場産野菜の導入率（％）

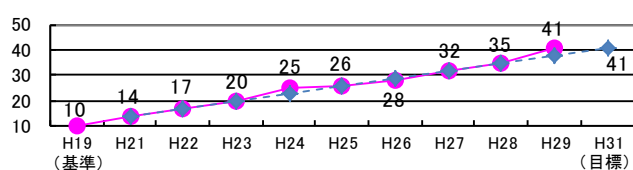
④ 個別目標１－４：人間を尊重し自然と共生する人づくり



参考図１３. UDに関する講座等への参加者数（人）

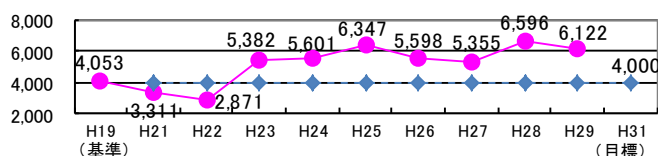


参考図１４. 国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数（人）



参考図１５. 環境にやさしい活動実践校数（校）

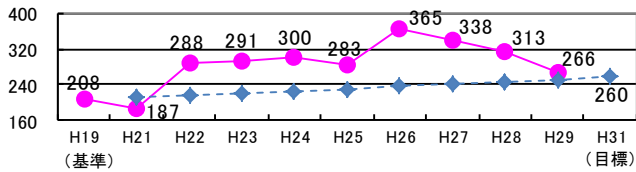
⑤ 個別目標２－１：ふるさとの理解の促進



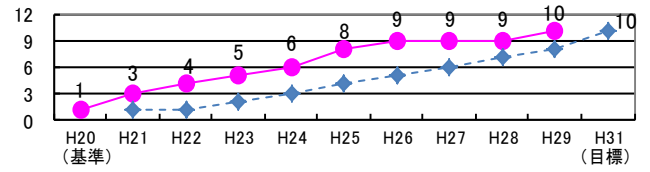
参考図１６. 地域について学ぶ講座等への参加者数（人）

※実線は実績値。点線は目標値。

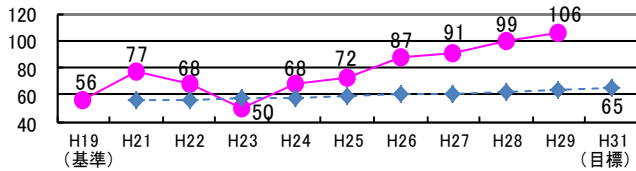
⑥ 個別目標２－２：きずなづくり・まちづくり



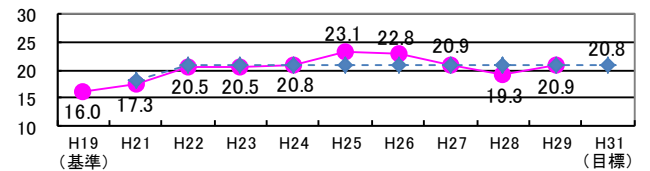
参考図 17. 青少年リーダー養成事業参加者数 (人)



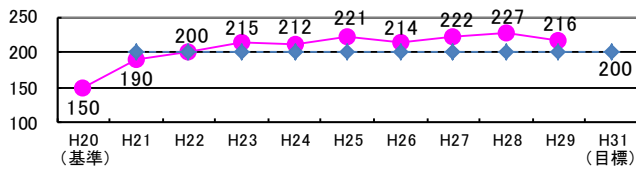
参考図 18. 学習成果の活用事例数 (件)



参考図 19. 発表・活動の場への参加団体数 (団体)

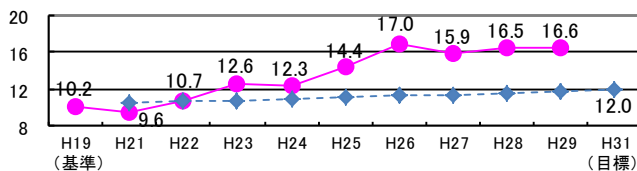


参考図 20. 各種スポーツ大会の観客数 (万人)

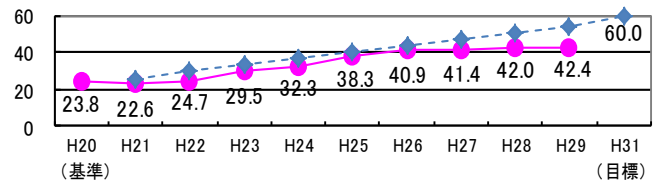


参考図 21. スポーツ合宿団体数 (団体)

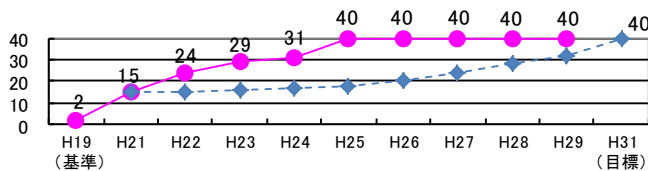
⑦ 基本方向１：学校・家庭・地域の連携



参考図 22. 子ども１人当たりの子育て支援センター等の利用回数 (回)



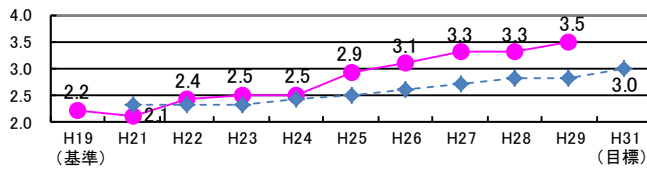
参考図 23. 子育てメール通信の利用率 (%)



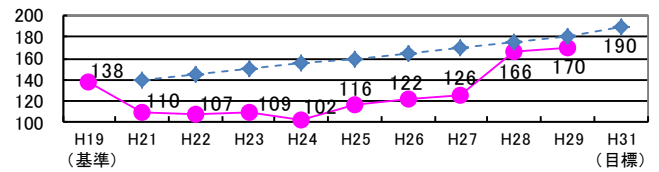
参考図 24. 学校支援ボランティアを活用した学校数 (校)

※実線は実績値。点線は目標値。

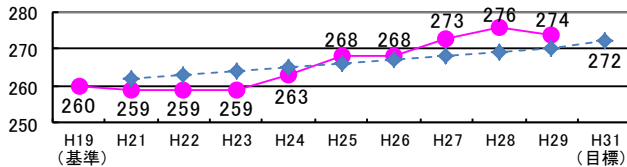
⑧ 基本方向2：教育を支える人材の育成



参考図25. 教職員1人当たりの研修受講回数（回）

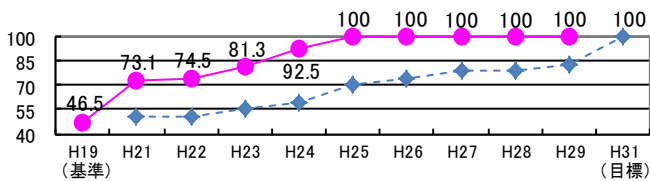


参考図26. 地域の指導者の登録者数（人）

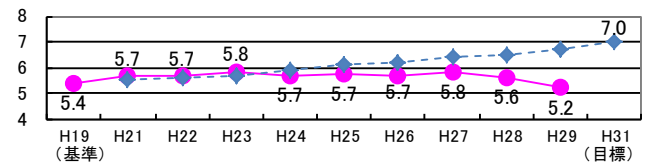


参考図27. ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数（団体）

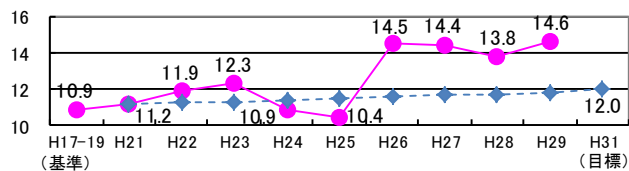
⑨ 基本方向3：教育環境の充実



参考図28. 小・中学校校舎の耐震化率（％）

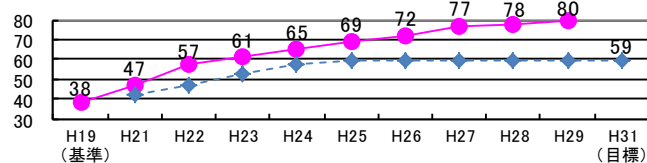


参考図29. 市民1人当たりの図書等の貸出点数（点）



参考図30. 児童会館の入館者数（万人）

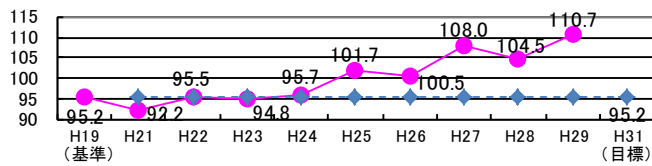
⑩ 基本方向4：教育機会の確保



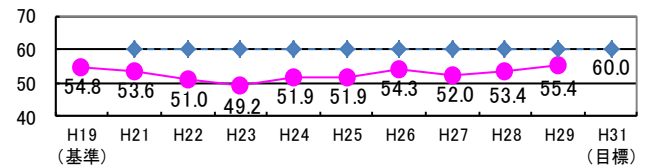
参考図31. 特別支援学級の設置数（学級）

※実線は実績値。点線は目標値。

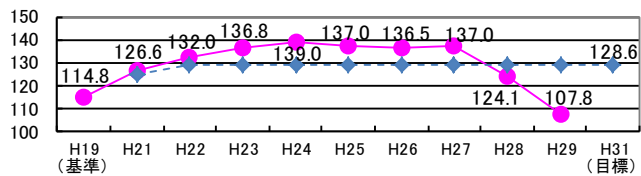
⑪ 基本方向5：よりよい教育のためのしくみづくり



参考図32. 社会教育施設の総利用者数（万人）



参考図33. 文化施設の利用者数（万人）



参考図34. スポーツ施設の利用者数（万人）

○ 課題及び今後の方向性に対する平成29年度の取組み

(1) 次代を担う人づくり

① 知識・技能の習得

展 開 方 策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成29年度の取組み
子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進	○学習指導や授業改善を行い、家庭や地域と連携して学習習慣や生活習慣の改善を進める ○帯広版アクティブ・ラーニングの推進のために、児童生徒の主体性を高める学習の実現に努める	○紀要「帯広の子どもの学力」に基づき、授業改善のための研修会「学力向上研修講座」の開催。エリア・ファミリーを中心に家庭や地域と連携して学習習慣や生活習慣の改善を進めようとする意識向上の取組みの実施 ○「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習指導や授業改善の実施
個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進	○講座内容の見直し、新規講座の実施、市民ニーズに適合した学習機会の提供や新規受講生の確保に取り組む	○体験講座の実施、託児受け入れの周知やチラシの配布先の見直し
職業に関する教育・学習活動の推進	○帯広南商業高校において、社会性と教養を身に付けた人材育成に努める	○インターンシップ事業や地域事業者によるビジネス基礎講座の実施。ICTを活用した専門的・実践的な職業教育の実施
高度情報化に対応した教育・学習活動の推進	○引き続き、関係機関と連携しSNSの正しい使い方やインターネットの安全利用に関する啓発活動に取り組む	○インターネットの安全利用とSNSトラブルの防止に向け、生徒指導機関をはじめ関係機関と連携した啓発活動の実施

② 豊かな心の育成

展 開 方 策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成29年度の取組み
子どもの社会性の育成	○不登校児童生徒の復帰に向けて、教育相談員の専門性の向上を図り、適応指導教室の活用を含めた教育相談体制や保護者への相談体制の強化に努める ○子どもの居場所づくりでは、ボランティアの人材育成やPR活動を行い、事業への理解促進とボランティア参加の呼びかけに取り組む	○毎月1回、教育相談員・スクールソーシャルワーカーを対象に定例会議の開催。家庭訪問等の実施。他機関と連携した相談・支援体制の充実 ○幅広い市民への事業周知、ボランティアスタッフを確保するため、わくわくこどもまつり・プラザまつりにPRブースを設置

豊かな情操の育成と生きがいづくり	○学校図書館において、蔵書整備、運営に係る担い手の確保や専門性の向上を図り、利用促進に取り組む ○芸術・文化情報を十分に市民周知できるよう、情報発信の手法を検討し、事業内容の充実に努める	○学校図書館の蔵書整備。学校図書ボランティア等による読み聞かせや朝読書の実施。図書館「ぶっくーる便」の活用、図書館職員による「学校図書館クリニック」や「語り手育成講習会」の実施 ○広報おびひろや市ホームページ、SNS等による情報発信
------------------	---	--

③ 健やかな体づくり

展 開 方 策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成29年度の実施
健やかな体を育むスポーツ活動等の推進	○スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数や総合型地域スポーツクラブの設置数の増加を図るため、多くの市民がスポーツに親しみ、楽しむことのできる機会づくりに努める ○学校等を通じて各家庭へスポーツ少年団の情報提供を継続する	○フードバレーとかちマラソン大会など、市民参加型のスポーツ大会や教室の開催。平昌オリンピックの開催に合わせパブリックビューイングを設置し、市民がスポーツを身近に感じる機会を提供 ○小学校を通じ、少年団活動の周知
食育の推進と学校給食の充実	○地元の関係機関と協議を進め、地場産野菜の使用量・品種拡大に取り組む ○子どもたちの嗜好を把握するアンケート調査を実施し、より取り組みやすい食育の環境づくりに努める	○地元の関係機関と協議を重ね、新たに地場産の玉葱、キャベツ、レタスの使用・拡大 ○児童生徒の実態に応じた指導資料の作成・周知。アンケートを実施し、その結果を給食指導・食育において活用

④ 人間を尊重し自然と共生する人づくり

展 開 方 策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成29年度の実施
人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進	○関係部署と連携し、より効果的・効率的にユニバーサルデザインの周知に努める ○社会慣行の解消のため、男女平等意識の定着・浸透を図る ○手話の出前講座の実施等により、障害のある方への理解を進めるノーマライゼーションを促進する	○児童保育センターや帯広南商業高校でのユニバーサルデザイン講座の開催のほか、新たに大正ふれあいまつりにおいて周知啓発を行うなど、庁内外と連携した取り組みの実施 ○男女共同参画に関する講座の開催や情報誌の発行などの継続 ○手話の出前講座や市職員への手話研修等の実施

グローバル化に対応した教育・学習活動の推進	○外国語指導講師の派遣、エリア・ファミリーを考慮した外国語活動やチーム・ティーチングの指導を行い、児童生徒の外国語によるコミュニケーション能力の向上を図る	○中1ギャップの解消や中学校外国語科へのスムーズな移行を図るため、エリア・ファミリーを意識した外国語指導講師の派遣を継続。派遣された外国語指導講師を効果的に活用するなど、チーム・ティーチングによる指導を実施
環境に関する教育・学習活動の推進	○環境教育プログラム集などにより情報を発信し、帯広らしい環境教育を推進する	○環境にやさしい活動実践校を新たに6校認定し、市内全41校の認定が完了。環境教育プログラム集やホームページによる情報発信。学校と行政との意見交換の実施

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

① ふるさとの理解の促進

展 開 方 策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成29年度の取組み
子どものふるさと教育の推進	○小中学校で行っている体験活動等のプログラムの見直しや学校独自の取り組みなどを検討する ○百年記念館では、教材の更新や新たなプログラムづくりに取り組む	○小学校4年生対象の郷土体験学習、中学生対象の自然体験学習の実施。見学・体験先の見直し・拡大 ○新たにエゾリスとヒバリの剥製資料の製作
地域に関する学習活動の推進	○市民大学講座、百年記念館博物館講座や図書館郷土資料展示などにより、地域理解を深める機会を提供する ○アイヌ民族の歴史や文化の学習機会の充実を図るため、リウカの利用や出前講座の周知を積極的に行い、理解の促進に取り組む	○市民大学講座で、地域の歴史や特性を学ぶ講座の開催。百年記念館で、博物館講座や各種展示などの実施。図書館で、郷土の歌人中城ふみ子の名を冠した全国公募短歌賞の次年度募集に向けた取組みの実施 ○パンフレットの配布・周知、アイヌ文化パネルの貸出しのほか、リウカでの体験学習や小学校への出前講座の実施

② きずなづくり・まちづくり

展 開 方 策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成29年度の実施
まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進	○青少年育成団体スタッフの人材育成・発掘のため、活動内容を積極的に周知し、学校、PTA、地域などの協力を得ながら組織の体制強化を図る ○社会教育施設において、知識・技術の向上・継承を図り、活動の場を今後も提供する	○青少年育成団体の活動等について広く市民に周知を図り、協力者が活動しやすい体制づくりの検討 ○図書館の講座受講者がボランティアのおはなし団体を結成し活動を開始。百年記念館のボランティアによるレコードコンサートの開催や展示解説のほか、新たにマッチ箱の整理や、展示企画の実施
にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興	○芸術文化団体の活動の継続・活性化のため、文化団体等が意見・情報交換する機会の提供を検討する ○各種スポーツ大会の観客数の増加を図るため、実施団体からの要望等を踏まえ、安全で快適に競技できる環境の整備に努める	○平成31年度開催予定の市民・企業参加型の鑑賞事業の検討に係る文化団体・企業との協議 ○日本クラブユースサッカー選手権大会の継続開催や、プロや社会人による野球交流戦のタンチョウリーグ開催など、全国レベルのスポーツ観戦の機会の提供

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

① 学校・家庭・地域の連携

展 開 方 策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成29年度の実施
開かれた学校づくり	○学校評議員研修会等の内容を充実させ、各小中学校の評議員の交流や情報交換の機会を設ける	○学校評議員研修会において、コミュニティスクールをはじめとする、現在の国の動向等について情報提供するとともに、グループ毎に評議員の交流や情報交換の機会を設定
家庭教育への支援	○子どもの月齢に合わせた子育てのアドバイスや地域の情報を配信し、利用の利便性を図る	○母子健康手帳配布時、健診時などの機会を利用した周知
家庭や地域による教育支援の推進	○「こども学校応援地域基金プロジェクト」を推進するため、学校支援ボランティアの人材確保や各種団体と活動の情報交流を行い、活動内容の充実に取り組む	○コーディネーターやボランティアのスキルアップに関する研修会の開催や周知。事業交流会などの実施。学校支援アドバイザーを設置し、コーディネーター間の情報の交流や活動のアドバイス等の支援

② 教育を支える人材の育成

展 開 方 策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 29 年度の実施
教員の人間力・指導力の向上	○教員リーダー育成事業「21 世紀教師塾」を見直し、教員の資質・能力や人間性と社会性の向上を図る	○「21 世紀教師塾」は平成 29 年度より「ONE-UP 研修会」と名称を変更し、参加対象を広げ、より「教員リーダー育成」の趣旨に沿うよう改善
地域の人材の発掘・育成・活用	○指導している登録者の高齢化等を解消するため、積極的でわかりやすい広報活動により、地域の人材発掘と活用を図る	○制度の認知度を高めるための周知方法の見直し

③ 教育環境の充実

展 開 方 策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 29 年度の実施
学校教育の環境整備	○平成 30 年度の学校施設の長寿命化計画策定に向けて、劣化調査を実施し、計画的に建物の延命化を図る	○学校施設の長寿命化計画策定に必要な劣化調査・分析の実施
社会教育の環境整備	○図書館での市民 1 人当たりの図書等の貸出点数を増やすため、PR 活動や講座・講演会の開催により、利用拡大に取り組む ○社会教育施設の機能を維持できるよう、施設状況を適切に把握し、施設・設備の修繕と更新を計画的に行う	○子育て応援バッグの貸出しや、高校生の紹介本の設置。図書館システムを更新し、ホームページのリニューアルによる情報発信の強化 ○とかちプラザの 1 階身障者用トイレのオストメイトトイレ化修繕。競技環境の維持を図るため、帯広の森体育館の暖房設備やアイスアリーナの冷凍機設備の修繕。市民文化ホールの小ホール舞台装置の更新。百年記念館の非常用自家発電機の更新や屋根等の修繕。動物園の給水管の更新。そのほか、緊急性の高いものから修繕を実施
保育・体験活動の環境整備	○児童保育センターの保育需要に対応するため、小学校の余裕教室の活用などを検討する	○川西児童保育センターの増築及び柏、光南児童保育センター分室、大空児童保育センターの改修

④ 教育機会の確保

展 開 方 策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成29年度の実施
就学・進学への支援	○経済的負担を軽減するため、就学援助費の支給費目の拡大や、さらに使いやすい奨学金制度の検討を進める ○高校の間の維持確保するため、情報収集や要望活動を継続する	○就学援助費の支給費目にPTA会費と生徒会費を追加したほか、新中学1年生に対する新入学学用品費の入学前支給を開始。奨学金貸与開始時期を5月に早期化 ○「帯広市高等学校間口対策協議会」を中心とした情報収集
健やかな発達への支援	○適切な支援や教育を行うため、特別支援教育補助員や助手、生活介助員を適切に配置し、合理的配慮の考え方に基づいた体制・環境の整備を進める	○特別支援教育補助員の増員（2人） - 生活介助員の増員（3人） - 知的学級（1校）の開設 - 病弱・身体虚弱学級（1校）の開設

⑤ よりよい教育のためのしくみづくり

展 開 方 策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成29年度の実施
魅力ある学校づくりの推進	○地域との連携や将来を見据えた事業として進め、地域人材の発掘と確保を図る	○学校支援アドバイザーを設置し、コーディネーター間の情報の交流や活動のアドバイス等の支援
学校教育のしくみの工夫改善	○教職員間の意見交流や学校間の授業交流の機会を設け、学校種間の連携をより一層強化する ○小中学校の適正規模の確保等について、対象校の選定を行い、市民の理解を得られる計画の策定に努める	○幼保小中連携エリア実践交流会のほか、エリアにおける実践事例の発表や各エリアの状況の交流、意見交流等を行い、情報の共有や学校種間の連携を強化 ○計画策定に向け、保護者や地域住民を対象とした意見交換会を開催し、その場の意見や学校を取り巻く教育環境などから、前期対象校の選定作業を実施
社会教育施設の利用の促進	○文化・スポーツ施設の利用促進のため、イベント等の情報発信を強化し、施設の復旧・修繕等を進める	○市民ギャラリーの冷暖房機室内機ファンモーター等の施設修繕。台風被害によりスポーツ大会が中止とならないよう、代替の開催場所を用意するための利用調整
地域の実情に応じた教育行政の推進	○幅広い市民の意見を反映できるよう、教育懇談会の開催方法の工夫・改善を検討する	○教育懇談会のほか、教育関係団体などとの意見交換会の開催